

福島県高等学校野球連盟沿革史（抜粋）

年 度	内 容
昭和 2 1 年	(1) 第 28 回中学校野球大会第一次予選県下大会（主催：朝日新聞社・県野球連盟）は、参加校 16 校により福島市で開催する。各校とも用具揃わず代用品を手に入れ、服装は開襟シャツに白の長ズボン、地下足袋姿。
昭和 2 2 年	(1) 「全国中等学校野球連盟」の地方組織として「 福島県中等学校野球連盟 」が発足（3 月 26 日）する。 (2) 初代理事長幸野岩雄（福島中校長）就任し、事務局を福島中におく。 (3) 第 29 回中学校野球大会第一次予選県下大会（主催：朝日新聞社・県中野連）は、参加校 24 校により福島市で開催する。 理 事 長 幸 野 岩 雄（福島中校長） 常任理事 和 田 忠（福 商）・清 野 春 治（福 島） 事務局長 清 水 利 夫（福 商）
昭和 2 3 年	(1) 福島県高等学校野球連盟 （学生改革により）に名称変更する。 (2) 近県高校選抜野球大会（主催：郡山日大・高体連石城支部）を磐城高校球場で開催するも、学生野球基準要項に違反する旨、全国高野連より忠告される。磐城、茨城、米沢一高、水戸一高、水戸商、福島、山形二高、平工の 8 校参加。 (3) 第 30 回高等学校野球大会第一次予選県下大会（主催：朝日新聞社・県高野連）は、参加校 28 校により福島市で開催する。
昭和 2 4 年	(1) 二代理事長稲村良之助（福商校長）が就任する。 (2) 春季・秋季県大会は、選抜高校野球大会の名称で実施する。 (3) 東北地区高等学校野球連盟が発足し、会長を宮城県に置くこととする。 (4) 秋季東北地区高等学校野球大会が発足する。 (5) 第 31 回高等学校野球大会第一次予選県下大会は、参加校 36 校により福島市で開催する。 (6) 第 4 回国民体育大会に福島商業高等学校が出場する。（初出場）
昭和 2 5 年	(1) 県高野連規約が改正されて常任理事を 4 名とする。 (2) 福島県高等学校体育連盟が発足し、高体連野球部長を常任理事和田忠（福商）が担当する。 (3) 県高野連に軟式野球の部が設置される。 (4) 第 32 回高等学校野球大会第一次予選県下大会は、地区予選を勝ち抜いた 22 校により福島市で開催する。 理 事 長 稲 村 良之助（福 商） 常任理事 和 田 忠（福 商）・清 水 利 夫（福 商） 安 部 武（福 島）・清 野 春 治（福 島） 理 事 柴 田 典 勝（福 農）・近 藤 金 弥（白 河） 須 田 昇（若 商）・鶴 沼 昂 一（磐 城） 渡 辺 春 雄（双 葉）
昭和 2 6 年	(1) 理事長制から会長制に改組し、初代会長に稲村良之助（福商校長）、三代理事長に清野春治（福島）就任する。

年 度	内 容
昭和 2 6 年	(2) 下部組織の県南地区高野連は、県南地区と県中地区とに分離し、6地区制となる。 (3) 第 33 回高等学校野球大会第一次予選県下大会は、参加校 28 校により会津若松市で開催する。 (4) 第 33 回全国高等学校野球選手権大会に福島商業高等学校が出場する。(戦後本県初出場)
昭和 2 7 年	(1) 県営信夫ヶ丘完成記念県下高等学校野球選抜大会が(後援：福島民報社) 発足する。 (2) 第 34 回大会よりシード校 4 校を代表者会議出席者の投票によって決定する。 (3) 第 34 回高等学校野球大会第一次予選県下大会は、参加校 39 校により福島市で開催する。 (4) 第 7 回国民体育大会は、本県で開催され、安積高等学校が出場(仙台市：宮城野球場) する。(一回戦 八尾 3－0 安積) (5) 第 2 回全国高校軟式野球大会を国体期間中に郡山(開成山球場) で開催、福商出場する。(一回戦 松商学院 3－0 福商)
昭和 2 8 年	(1) 第 35 回大会 2 日連続雨のため信夫ヶ丘、日東紡、福商グラウンドの 3 球場で開幕する。 (2) 第 35 回高等学校野球大会第一次予選県下大会は、参加校 29 校により福島市で開催する。
昭和 2 9 年	(1) 春季東北地区高等学校野球大会が発足する。 (2) 第 9 回国民体育大会に福島商業高校が出場する。(2 回目) (3) 第 36 回高等学校野球大会第一次予選県下大会は、参加校 40 校により福島市で開催する。 (4) 第 36 回全国高等学校野球選手権大会に福島商業高校が出場する。(2 回目)
昭和 3 0 年	(1) 内郷高校の選手出場制限(常磐炭坑の修技生)の解除を認める。 (2) 第 37 回高等学校野球大会第一次予選県下大会は、参加校 40 校により福島市で開催する。
昭和 3 1 年	(1) 第 1 回全国高校軟式野球選手権大会開催する。(藤井寺球場) (2) 第 38 回高等学校野球選手権大会第一次予選県下大会は、参加校 40 校により福島市で開催する。
昭和 3 2 年	(1) 第 11 回日本学生野球協会結成記念大会に高校の部が発足し、福島商業高校が出場する。 (2) 第 39 回全国高等学校野球選手権第一次予選福島県大会は、参加校 38 校により会津若松市で開催する。
昭和 3 3 年	(1) 二代会長に安井健夫(福商校長)、四代理事長に柴田典勝(福島農)が就任する。 (2) 夏の大会入場料、大人ネット裏 70 円、内野 50 円、中高生 30 円、小学生 20 円、応援団 10 円。 (3) 延長戦は 18 回まで、バッターは、必ずヘルメットを使用することが申し合われる。 (4) 第 40 回全国高等学校野球選手権記念福島大会は、参加校 41 校により福島市で開催する。 (5) 第 40 回大会は、同地区同士 2 回戦まで対戦しない地区シード制を採用する。 (6) 第 40 回全国高等学校野球選手権記念大会に福島商業高校が出場する。(3 回目)

年 度	内 容
昭和 3 3 年	(7) 夏の大会 40 周年を記念して県高野連は、記念誌『高校野球四十年の足跡』を発行する。 (8) 第 11 回秋季東北地区高等学校野球大会で会津高校が優勝する。 会 長 安 井 健 夫 (福商) 理 事 長 柴 田 典 勝 (福農) 常任理事 和 田 忠 (保原)・藺 部 一 郎 (福島) 清 水 利 夫 (福商)・安 部 武 (福島) 理 事 長谷川 盛 雄 (福工)・吉 田 治 郎 (安積) 河 野 勇 (白河)・須 田 昇 (若商) 柳 沢 一 郎 (磐城)・鈴 木 重 雄 (双葉)
昭和 3 4 年	(1) 第 31 回選抜高等学校野球大会に会津高校が出場する。(本県初出場) (2) 第 2 次予選東北大会は、福島県・宮城県の代表決定戦となる。(昭和 47 年、第 54 回大会まで) (3) 第 41 回全国高等学校野球選手権第一次予選福島県大会は、参加校 42 校により福島市で開催する。 (4) 春・秋の東北大会開催地は、県庁所在地を原則とする制度ができる。
昭和 3 5 年	(1) 県高野連は、規約を改正し、会長を評議員会で選出し、理事 6 名に、監事を新たに設置する。 (2) 県高野連は、会費 1,000 円徴収する。(従来は、全国高野連還元金を充当する。) (3) 平市総合グラウンド完成を記念して、第 42 回大会を平市で開催する。 (4) 第 42 回全国高等学校野球選手権第一次予選福島県大会より第 54 回 (昭和 47 年) まで、記念大会を除き、決勝戦を行わず決勝進出校 2 校が、第 2 次予選東北大会に出場する。 (5) 第 42 回全国高等学校野球選手権第一次予選福島県大会は、参加校 45 校により平市で開催する。
昭和 3 6 年	(1) ハワイ選抜高校親善試合が会津若松市で開催する。全福島 3 - 1 ハワイ (2) シーズン制ができる。(11 月末日より 3 月 24 日まで対外試合禁止) (3) 背番号は登録順の番号をつけることになる。(従来は曖昧であった。) (4) 夏の大会のプログラム、ポスターが初めてできる。(朝日広告社・朝日販売店) (5) 第 43 回全国高等学校野球選手権第一次予選福島県大会は、参加校 49 校により福島市で開催する。 (6) 第 43 回大会は、一都市四球場を使用して開催する。(信夫ヶ丘、日東紡、自衛隊、飯坂球場)
昭和 3 7 年	(1) 全国高等学校野球連盟は、財団法人「日本高等学校野球連盟」に改組する。 (2) 夏の大会は、8 校をシードする。(4 校連記投票で決定) (3) 春・秋の県大会は、開催地の持ち回り制にする。(県北→県中→県南→会津→石城) (4) 夏の大会は、前日に開会式を県庁前広場で実施する。 (5) 第 44 回全国高等学校野球選手権第一次予選福島県大会は、参加校 51 校により福島市で開催する。 (6) 第 44 回大会は、一都市三球場を使用する。(信夫ヶ丘、日東紡、飯坂)

年 度	内 容																												
昭和 3 8 年	(1) 春・秋の選抜県大会の名称を春季・秋季県下高等学校野球大会に改称する。 (2) 夏の大会運営委員会が組織化され、理事、審判協会、朝日新聞社で構成される。 (3) コールドゲームの規定できる。(4回半：15点、6回半：8点、日没降雨：6回半) (4) 第 45 回大会は、記念大会のため 1 県 1 校甲子園出場できる。 (5) 第 45 回全国高等学校野球選手権記念福島大会は、参加校 54 校により福島市で開催する。 (6) 第 45 回全国高等学校野球選手権記念大会に磐城高校が出場。(初出場)																												
昭和 3 9 年	(1) この年より夏の大会地区予選制を採用する。(各地区予選→県予選→東北大会→甲子園) (2) 第 46 回大会は、開会式を前日に福島市の稲荷公園で行う。 (3) 第 46 回全国高等学校野球選手権第一次予選福島県大会は、参加校 32 校により福島市で開催する。 (4) 秋の県大会決勝戦(9/22)を雨のため東北大会後(10/19)開成山から平球場(双葉対磐城)に移して開催する。																												
昭和 4 0 年	(1) 県高野連は、規約を改正(6条4項)して地区理事6名を12名とする。 (2) 第 47 回全国高等学校野球選手権第一次予選福島県大会は、参加校 58 校により福島市で開催する。 (3) 夏の大会は、地区予選制を実施することになり、地区再編成と地区配分数問題が起こり、小委員会を設置して検討する。																												
昭和 4 1 年	(1) 三代会長に大和田道隆(福島高校長)が就任するも 10 月退職のため会長代理に富田高明(福工校長)をおく。 (2) 県高野連は、規約を改正(6条7項)し、審判部長を設け、初代審判部長に村上富也(福工)が就任する。 (3) コールドゲームの規定を一部改正する。(4回半 15 点差を廃止する) (4) 第 48 回全国高等学校野球選手権第一次予選福島県大会は、参加校 32 校により福島市で開催する。 (5) 第 48 回全国高等学校野球選手権大会に福島商業高校が出場する。(4回目) (6) 第 21 回国民体育大会に岩瀬農業高校が軟式野球の部に出場する。(初出場) (7) 石城地区をいわき地区に改称する。 <table border="0"> <tr> <td>会 長</td><td>大和田 道 隆(福 島)</td></tr> <tr> <td>会長代理</td><td>富 田 高 明(福 工)</td></tr> <tr> <td>理 事 長</td><td>柴 田 典 勝(福 商)</td></tr> <tr> <td>理 事</td><td></td></tr> <tr> <td> 県 北</td><td>羽 田 清一郎(福 商)・室 井 勝 己(飯 坂)</td></tr> <tr> <td> 県 中</td><td>菅 野 朋 重(郡 工)・民 井 正 男(郡西工)</td></tr> <tr> <td> 県 南</td><td>小 見 義 友(白農工)・中 村 孝(白 河)</td></tr> <tr> <td> 会 津</td><td>須 田 昇(若 商)・佐 藤 修(大 沼)</td></tr> <tr> <td> いわき</td><td>金 土 正 孝(磐 城)・賀 沢 裕 三(平 工)</td></tr> <tr> <td> 相 双</td><td>鈴 木 重 男(双 葉)・原 田 幸 蔵(相 馬)</td></tr> <tr> <td>常任理事</td><td>中 村 正 直(福 農)・村 上 富 也(福 工)</td></tr> <tr> <td></td><td>宇田川 孝 吉(福 商)・羽 田 清一郎(福 商)</td></tr> <tr> <td>審判部長</td><td>村 上 富 也(福 工)</td></tr> <tr> <td>監 事</td><td>佐々木 慶 司(会 津)</td></tr> </table>	会 長	大和田 道 隆(福 島)	会長代理	富 田 高 明(福 工)	理 事 長	柴 田 典 勝(福 商)	理 事		県 北	羽 田 清一郎(福 商)・室 井 勝 己(飯 坂)	県 中	菅 野 朋 重(郡 工)・民 井 正 男(郡西工)	県 南	小 見 義 友(白農工)・中 村 孝(白 河)	会 津	須 田 昇(若 商)・佐 藤 修(大 沼)	いわき	金 土 正 孝(磐 城)・賀 沢 裕 三(平 工)	相 双	鈴 木 重 男(双 葉)・原 田 幸 蔵(相 馬)	常任理事	中 村 正 直(福 農)・村 上 富 也(福 工)		宇田川 孝 吉(福 商)・羽 田 清一郎(福 商)	審判部長	村 上 富 也(福 工)	監 事	佐々木 慶 司(会 津)
会 長	大和田 道 隆(福 島)																												
会長代理	富 田 高 明(福 工)																												
理 事 長	柴 田 典 勝(福 商)																												
理 事																													
県 北	羽 田 清一郎(福 商)・室 井 勝 己(飯 坂)																												
県 中	菅 野 朋 重(郡 工)・民 井 正 男(郡西工)																												
県 南	小 見 義 友(白農工)・中 村 孝(白 河)																												
会 津	須 田 昇(若 商)・佐 藤 修(大 沼)																												
いわき	金 土 正 孝(磐 城)・賀 沢 裕 三(平 工)																												
相 双	鈴 木 重 男(双 葉)・原 田 幸 蔵(相 馬)																												
常任理事	中 村 正 直(福 農)・村 上 富 也(福 工)																												
	宇田川 孝 吉(福 商)・羽 田 清一郎(福 商)																												
審判部長	村 上 富 也(福 工)																												
監 事	佐々木 慶 司(会 津)																												

年 度	内 容
昭和４２年	(1) 四代会長に富田高明(福工校長)が就任する。 (2) 夏の大会開会式は、登録選手全員参加の原則が確立する。 (3) 夏の大会入場料、大人 100 円、高校生 50 円、小中学生 30 円、応援団 10 円。 (4) 第 49 回全国高等学校野球選手権第一次予選福島県大会は、参加校 38 校によりいわき市で開催する。
昭和４３年	(1) 第 40 回選抜高等学校野球大会に磐城高等学校が出場する。(初出場) (2) 監督の服装も選手と同一のユニフォームを着用することを確認する。(従来は、曖昧であった) (3) 夏の大会審判は、地区割り制を採用する。 (4) 第 50 回大会は記念大会のため、1 県 1 校が甲子園に出場できる。 (5) 第 50 回全国高等学校野球選手権記念福島県大会は、参加校 60 校により福島市で開催する。 (6) 第 50 回全国高等学校野球選手権記念大会に、磐城高等学校が出場する。(2 回目) (7) 夏の大会役員が服装を統一する。(シャツと帽子本部用意、ズボン白：自己負担)
昭和４４年	(1) 五代理事長に村上富也(福工)が就任する。 (2) 二代審判部長に羽田清一郎(福商)が就任する。 (3) 野球部長の登録制ができる。一家転住による転入生は即時選手として登録できる。 (4) 第 51 回全国高等学校野球選手権第一次予選福島県大会は、参加校 38 校により福島市で開催する。
昭和４５年	(1) 夏の大会地区予選制は、この年をもって終了する。 (2) 県高野連は、会費を 1,000 円から 1,500 円に値上げする。(東北、全国高野連値上げに伴う) (3) 第 15 回全国高等学校軟式野球選手権大会で岩瀬農業高等学校(初出場)が優勝する。 (4) 夏の大会入場料、大人 150 円、中高校生 50 円、小学生 20 円、応援団 10 円。 (5) 夏の大会は、一都市三球場を使用して開催する。(開成山・日和田・熱海) (6) 第 52 回全国高等学校野球選手権第一次予選福島県大会は、参加校 38 校により郡山市で開催する。
昭和４６年	(1) 第 43 回選抜高等学校野球大会に福島商業高等学校が出場する。(初出場) (2) 県営信夫ヶ丘球場完成記念県下高校選抜野球大会は、この年(20 回記念大会)をもって終了する。 (3) 五代会長に鎌田正(福島商校長)、六代理事長に須田昇(若商)、初代事務局長に上條弥八(福商)が就任する。 (4) 高野連は、規約を改正(第 6 条 5 項、第 9 条 2 項削除)し、常任理事制を廃止する。 (5) 第 53 回全国高等学校野球選手権第一次予選福島県大会は、参加校 58 校により福島市で開催する。 (6) 第 53 回全国高等学校野球選手権大会に磐城高等学校が出場(4 回目)し、準優勝する。 (7) 第 26 回国民体育大会に磐城高等学校が出場する。(2 回目) 会 長 鎌 田 正(福島商) 理 事 長 須 田 昇(若 商) 理 事 県 北 久間木 博(飯 坂)・佐 藤 英 明(福 島)

年 度	内 容
昭和４６年	県 中 民 井 正 男(郡西工)・平 澤 伸 雄(安 積) 県 南 小 見 義 友(白農工)・河 野 勇(白 河) 会 津 須 田 昇(若 商)・佐々木 慶 司(会 津) いわき 渡 辺 昇(平 工)・小 林 好 夫(湯 本) 相 双 滝 田 健 二(双 葉)・丸 山 博 史(小高工) 審判部長 羽 田 清一郎(福 商) 監 事 宮 原 庄 司(猪苗代)・佐 藤 実(白 河) 塩 谷 重 昭(郡 商) 事務局長 上 條 弥 八(福 商)
昭和４７年	(1) 七代理事長に柴田典勝（福島商）が就任する。 (2) 夏の大会試合前のシート・ノックに限り１名のノッカーを認める。 (3) 県高野連は、スポーツに伴う損害保険に加入する。 (4) 夏の大会で午前９時までの小中学生の入場を無料とする。 (5) 第５４回大会は、一都市三球場を使用して開催する。（開成山・熱海・日和田球場） (6) 夏の大会第二次予選東北大会は、この年をもって終了する。 (7) 第５４回全国高等学校野球選手権第一次予選福島県大会は、参加校 60 校により郡山市で開催する。
昭和４８年	(1) 第４回明治神宮大会に高校の部が新設され、磐城高等学校が出場する。 (2) 三代審判部長に長谷川盛雄（安達）が就任する。 (3) 耳付きヘルメットの着用が義務付けされる。 (4) 第５５回大会は、二都市四球場を使用して開催する。（信夫ヶ丘・日東紡・開成山・熱海球場） (5) 夏の大会の選手宣誓は、開催地の番号の若い学校の主将とする。（従来は前年度優勝校の主将） (6) 第５５回大会は、記念大会のため１県１校が甲子園へ出場できる。 (7) 第５５回全国高等学校野球選手権記念福島大会は、参加校 60 校により福島市・郡山市で開催する。 (8) 第５５回全国高等学校野球選手権記念大会に双葉高等学校が出場する。（初出場）
昭和４９年	(1) 第４６回選抜高等学校野球大会に磐城高等学校が出場する。（２回目） (2) 県高野連は、規約を改正（第６条４項）して、理事に軟式野球部加盟校より若干名を入れる。 (3) 春の地区大会から金属バットの使用が認められる。 (4) 夏の大会は、福島県が福島大会として独立する。（優勝校：甲子園出場） (5) 県高野連は、選手強化合宿を実施する。 (6) 第５６回全国高等学校野球選手権福島大会は、参加校 61 校により福島市・郡山市で開催する。 (7) 第５６回全国高等学校野球選手権大会に福島商業高等学校が出場する。（５回目）
昭和５０年	(1) 六代会長に高橋健郎（福島商校長）が就任する。 (2) 秋季県大会は、１２チーム制となる。（開催地区３・相双地区１・その他の地区２） (3) 第５７回全国高等学校野球選手権福島大会は、参加校 61 校によりいわき市・郡山市で開催する。 (4) 第５７回全国高等学校野球選手権大会に磐城高等学校が出場する。（５回目）

年 度	内 容
昭和 5 0 年	(5) 第 6 回明治神宮大会に学法石川高等学校が出場する。(初出場)
昭和 5 1 年	(1) 第 48 回選抜高等学校野球大会に学法石川高等学校が出場する。(初出場) (2) 八代理事長に上條弥八(福島商)、二代事務局長に坪田授(福島商)が就任する。 (3) 新入生の練習参加規定改正(3月25日以降、当該校長・中学校長・保護者の同意必要) (4) 第 58 回全国高等学校野球選手権福島大会は、参加校 61 校により郡山市・福島市で開催する。 (5) 第 58 回全国高等学校野球選手権大会に学法石川高等学校が出場する。(初出場)
昭和 5 2 年	(1) 七代会長に根本虎雄(福工校長)就任する。 (2) 夏の大会参加選手は、今大会以後保護者の同意が必要になる。 (3) 試合中監督は、選手をベンチに呼ばず伝令を使って指示することを徹底する。 (4) 第 59 回全国高等学校野球選手権福島大会は、参加校 63 校により郡山市・いわき市で開催する。 (5) 第 59 回全国高等学校野球選手権大会に福島商業高等学校が出場する。(6回目) (6) 第 32 回国民体育大会に福島商業高校が出場する。(3回目)
昭和 5 3 年	(1) 53 インターハイが本県開催のため、夏の大会日程を 7 月 15 日～ 24 日にて開催する。 (2) 第 60 回全国高等学校野球選手権福島大会は、参加校 63 校により郡山市・いわき市で開催する。 (3) 第 60 回全国高等学校野球選手権大会に郡山北工業高等学校が出場する。(初出場) (4) 第 60 回を記念して、この年から全都道府県から 1 校ずつ代表が甲子園出場できるようになる。
昭和 5 4 年	(1) 八代会長に栗村道彦(福島北校長)が就任する。 (2) 夏の大会入場、大人 300 円、高校生 100 円、小中学生 50 円、応援団 20 円。 (3) コールド・ゲーム(4回半 15 点、6回半 8 点差)制を採用する。 (4) 第 61 回全国高等学校野球選手権記念福島大会は、参加校 66 校により福島市・郡山市・須賀川市で開催する。 (5) 第 61 回全国高等学校野球選手権記念大会に安積商業高等学校が出場する。(初出場)
昭和 5 5 年	(1) 夏の大会開催地選定の際に中体連の開催地を考慮する。 (2) 夏の大会の予算書を会場担当地区毎に作成する。 (3) 第 62 回全国高等学校野球選手権記念福島大会は、参加校 69 校により郡山市・須賀川市・福島市で開催する。 (4) 第 62 回全国高等学校野球選手権記念大会に双葉高等学校が出場する。(2回目) (5) 秋季県大会の日程を 4 日間とする。(準決勝・決勝戦のダブル・ヘッターをなくす)
昭和 5 6 年	(1) 第 53 回選抜高等学校野球大会に福島商業高等学校が出場する。(2回目) (2) 春の県大会 12 チーム制(開催地 3・相双地区 1・その他の地区 2)を採用する。 (3) 県高野連は、予算を前年の大会剰余金で編成することが可能になる。 (4) 第 63 回全国高等学校野球選手権福島大会は、参加校 70 校によりいわき市・郡山市・須賀川市で開催する。 (5) 第 63 回全国高等学校野球選手権大会に福島商業高等学校が出場する。(7回目)

年 度	内 容
昭和 5 7 年	(1) 九代会長に塩田諭（福島農産校長）、三代事務局長に久間泰瑞（福島農産）が就任する。 (2) 県高野連は、表彰委員会を制定する。 (3) コールド・ゲーム（4回半 12 点、6 回半 7 点差）制を採用する。 (4) 夏の大会運営準備金制度が出来る。 (5) 第 64 回全国高等学校野球選手権福島大会は、参加校 70 校により郡山市・須賀川市・いわき市で開催する。 (6) 第 64 回全国高等学校野球選手権大会に安積商業高等学校が出場する。（2 回目）
昭和 5 8 年	(1) 春・秋の県大会を東北地区高等学校野球福島県大会に改称する。 (2) 春季県大会の日程を 4 日間とする。（準決勝・決勝戦のダブル・ヘッターをなくす） (3) 県高野連は、会費を 1,500 円から 2,000 円に値上げする。 (4) 第 65 回全国高等学校野球選手権記念福島大会は、参加校 72 校により福島市・郡山市・須賀川市で開催する。 (5) 第 65 回全国高等学校野球選手権記念大会に学法石川高等学校が出場する。（2 回目） (6) 県高野連は、平工業高等学校軟式野球部を（第 28 回全国軟式野球大会準優勝）を表彰する。
昭和 5 9 年	(1) 十代会長に星与喜（福島北校長）、四代事務局長に芳賀敬夫（福島北）が就任する。 (2) 夏の大会入場料、大人 400 円、高校生 100 円、小中学生 50 円、応援団 20 円。 (3) 第 66 回全国高等学校野球選手権福島大会は、参加校 72 校により郡山市・須賀川市・いわき市で開催する。 (4) 第 66 回全国高等学校野球選手権大会に学法石川高等学校が出場する。（3 回目） (5) 秋季県大会が相双地区で初めて開催される。（各地区 2 校 12 チーム） (6) 県大会は 6 地区持ち回り制となる。（県北→県中→県南→会津→いわき→相双） (7) 県高野連は、平工業高等学校軟式野球部を（第 29 回国体軟式野球優勝）を表彰する。
昭和 6 0 年	(1) 夏の大会で地区シード制を採用する。 (2) 第 67 回全国高等学校野球選手権福島大会は、参加校 73 校によりいわき市・福島市で開催する。 (3) 第 67 回全国高等学校野球選手権大会に磐城高等学校が出場する。（6 回目）
昭和 6 1 年	(1) 九代理事長に芳賀敬夫（福島北）、五代事務局長に菅野正昭（福島北）が就任する。 (2) 第 68 回全国高等学校野球選手権福島大会は、参加校 74 校によりいわき市・福島市で開催する。 (3) 第 68 回全国高等学校野球選手権大会に学法石川高等学校が出場する。（4 回目） (4) 春季県大会が相双地区で初めて開催される。
昭和 6 2 年	(1) 第 59 回選抜高等学校野球大会に学法石川高等学校が出場する。（2 回目） (2) 十一代会長に神原昭三（福島北校長）が就任する。 (3) 夏の大会福島会場で県営あづま球場を初めて使用する。 (4) 第 69 回全国高等学校野球選手権福島大会は、参加校 76 校により福島市・郡山市・須賀川市で開催する。 (5) 第 69 回全国高等学校野球選手権大会に日大東北高等学校が出場する。（初出場） (6) 日韓親善高校野球大会が開成山球場で開催される。 福島選抜 3－4 韓国選抜

年 度	内 容
昭和 6 3 年	(1) 第 60 回選抜高等学校野球大会に福島北高等学校が出場する。(初出場) (2) 六代事務局長に石綿吉嗣(福島北)が就任する。 (3) 春季・秋季大会で、各地区 3 校の 18 チーム制を採用する。 (4) 夏の大会は、8 校シードとする。シードの基準は春・秋県大会優勝校 1・2、準優勝校 3・4 とし、その他は投票による。 (5) 県高野連は、夏の大会抽選委員会を設置する。 (6) 夏の大会は 7 月 16 日より開幕するが、いわき会場の開会式は雨のため中止となる。 (7) 県大会のベンチ入り人数を選手 20 名とする。(スコアラーを含め選手 20 名、部長、監督) (8) 第 70 回全国高等学校野球選手権福島大会は、参加校 78 校により郡山市・須賀川市・いわき市で開催する。 (9) 第 70 回全国高等学校野球選手権大会に学法石川高等学校が出場する。(6 回目)
平成 元 年	(1) 十二代会長に佐藤暹(福島北校長)が就任する。 (2) 高野連事務局に記録担当事務局員 6 名を置き、記録の保存、会報作成、記念誌発行を担当する。 (3) 夏の大会選手宣誓は、開催地区に関係なく会長が事前に抽選し、抽選会で決定する。 (4) 第 71 回全国高等学校野球選手権福島大会は、参加校 78 校により福島市・郡山市・須賀川市で開催する。 (5) 第 71 回全国高等学校野球選手権大会に学法石川高等学校が出場する。(7 回目) (6) あいづ球場が完成し、秋季相づち区大会よりオープンする。 (7) 県高野連より「1989 年県高野連会報(創刊号)」が発刊される。
平成 2 年	(1) 第 42 回春季高等学校野球県大会を新装なった「あいづ球場」で開催する。 (2) 第 72 回全国高等学校野球選手権福島大会は、参加校 78 校により郡山市・福島市・須賀川市で開催する。 (3) 第 72 回全国高等学校野球選手権大会に日大東北高等学校が出場する。(2 回目) 本県勢としては、昭和 55 年以来 7 年ぶりに初戦を突破する。 (4) 第 43 回秋季東北地区高等学校野球大会に学法石川、双葉高校が出場し、学法石川高等学校が優勝する。(2 回目) (5) 第 45 回国民体育大会高等学校野球軟式競技会において平工業高等学校準優勝する。 (6) 野球部員の頭髪の「自由」を標榜する学校が増えてきた。
平成 3 年	(1) 第 63 回選抜高等学校野球大会に学法石川高等学校が出場して 2 回戦に進出する。(3 回目) (2) 第 13 代会長に氏家仁(福島北校長)、第 4 代審判部長に黒沢元省(保原)が就任する。 (3) 大会参加者資格規定の一部改正して選手 20 名の中に女子のスコアラーを春・秋の大会に限ってベンチ入りを認める。(4/26) (4) 春季県大会いわき地区予選平商・四倉戦で本県初の女子スコアラー(中野和代)が平商ベンチ入りした。 (5) 県高野連は、参加費を 3,000 円から 5,000 円に値上げする。 (6) 第 46 回国民体育大会(石川県)に県高野連として視察団を派遣する。 軟式会場 ----- 菅 野 正 昭(福 工)・遠 藤 直 仁(聖 光) 硬式会場 ----- 千 葉 修 真(清 陵)・助 川 隆一郎(平 商) 深 谷 修 司(磐城二)・広 瀬 敬 彦(磐 城)

年 度	内 容
平 成 3 年	(7) 第 73 回全国高等学校野球選手権福島大会は、参加校 78 校によりいわき市・郡山市・須賀川市で開催する。 (8) 第 73 回全国高等学校野球選手権大会に学法石川高等学校が出場する。(7 回目) 学法石川の春の選抜大会、夏の全国大会連続初戦突破は本県勢として初の快挙である。
平 成 4 年	(1) 県高野連規約の大幅改正を 4 月 23 日の評議員会で行う。 (2) 第 74 回全国高等学校野球選手権福島大会を 35 年ぶりで会津地区で開催する。 (3) 第 74 回全国高等学校野球選手権福島大会は、参加校 78 校により郡山市・須賀川市・会津若松市・喜多方市で開催する。 (4) 第 74 回全国高等学校野球選手権大会に郡山高等学校が出場する。(初出場) (5) 第 37 回全国高等学校軟式野球優勝大会に日大東北高等学校出場し、準決勝に進出する。 (6) 第 47 回国民体育大会高等学校軟式野球競技会に日大東北高等学校出場する。
平 成 5 年	(1) 第 14 代会長に玄永清久(福工校長)、第 10 代理事長に菅野正昭(福工)が就任する。 (2) 県高野連登録料を 5,000 円から 10,000 円に値上げする。 (3) 夏の大会、大人の入場者数 1 万 5,000 人激減する。 (4) 県高野連監事を地区持ち回り制にする。 (5) 第 75 回全国高等学校野球選手権福島大会は、参加校 78 校により福島市・郡山市・須賀川市・会津若松市・喜多方市で開催する。 (6) 第 75 回全国高等学校野球選手権大会に学法石川高等学校が出場する。(8 回目)
平 成 6 年	(1) 第 15 代会長に及川利彌(福工校長)が就任する。 (2) 県大会・東北大会において競技当該校によるグラウンド整備が定着する。 (3) 第 50 回国民体育大会高等学校野球軟式競技のリハーサル大会(10 月 21 日～23 日)実施する。 (4) 第 50 回国民体育大会(ふくしま国体)高校野球硬式競技運営役員講習会を「21 世紀の森公園野球場」で開催する。 (5) 第 1 回県高野連指導者講習会を「郡山ユラックス熱海」で開催する。 (6) 第 76 回全国高等学校野球選手権福島大会は、参加校 78 校により福島市・会津若松市・喜多方市で開催する。 (7) 第 76 回全国高等学校野球選手権大会に双葉高等学校が出場する。(3 回目) (8) 第 76 回全国高等学校野球選手権福島大会開会式でプラカード嬢をやめ、各チーム代表者がプラカードを持つようになる。また、ブラスバンドの演奏をやめ、テープで入場行進を行う。
平 成 7 年	(1) 第 67 回選抜高等学校野球大会に清陵情報高等学校が出場する。(初出場) (2) 硬式に須賀川桐陽高校加盟(79 校)、軟式に富岡高校加盟(9 校)する。 (3) 打者、走者ともに涼味三月ヘルメット着用が義務付けられる。 (4) 打者用手袋、レッグガード、エルボーガードの使用が、負傷箇所防護目的でのみ認められる。 (5) 3 年生部員の登録はこれまで卒業式当日まで定めていたが、シーズン終了の 11 月 30 日をもって所属連盟の登録を抹消する。 (6) 県高野連は、各大会において記録員(女子可)を 1 名ベンチ入りを認める(20 名+1 名)、服装については制服とする。 (7) 第 78 回全国高等学校野球選手権福島大会よりシード校をポイント制で決定する。

年 度	内 容
平成 7 年	(8) 第 42 回春季東北地区高等学校野球大会を 6 月 9 日より 4 日間、第 50 回国民体育大会高等学校野球＜硬式＞競技リハーサル大会として、いわき市で開催する。 (9) 第 77 回全国高等学校野球選手権大会に磐城高等学校が出場する。(7 回目) (10) 第 50 回国民体育大会高等学校野球＜硬式＞競技をいわき市で開催し、磐城高等学校が出場する。(3 回目) (11) 第 50 回国民体育大会高等学校野球＜軟式＞競技を檜葉町で開催し、新地高等学校が出場する。(初出場) (12) 第 2 回県高野連指導者講習会を「郡山北工」で実施。講師 P L 学園野球部監督中村順司氏。
平成 8 年	(1) 第 16 代会長に永山三郎（福島工業高校長）が就任する。 (2) 硬式にあさか開成高校・福島西高校加盟し、硬式 81 校、軟式 9 校となる。 (3) 県高野連は「甲子園で勝てるチームを育成するため」に強化部を新設し、初代部長に助川隆一郎（平商）が就任する。 (4) 第 49 回秋季東北地区高等学校野球大会より出場校を各県 3 チームとなる。 (5) 秋季東北地区大会出場校数の増加にともない（12 校から 18 校へ）、秋季県大会の各地区出場校数を、県北 5、県中 4、県南 4、会津 5、いわき 5、相双 4 とし、県中・県南・相双の 3 地区はローテーションで 1 チームプラスする。今年度は相双に 1 校プラスする。（18 校から 28 校へ） (6) 夏の大会のシード校は、8 チームともポイント制（勝利得点順）で自動的に決定する。 (7) 県大会では各校の校旗の掲揚と校歌の斉唱を行う。 (8) 夏の大会の開会式は、昭和 47 年以来、千チーム一同に参加して一球場、メイン球場で行う。 (9) 第 3 回県高野連強化指導者講習会を郡山市で実施する。講師比佐仁氏（フィットネスアポロ・ジャパン代表） (10) 第 78 回全国高等学校野球選手権福島大会は、80 校により、いわき市・郡山市・須賀川市で開催する。 (11) 第 78 回全国高等学校野球選手権大会に日大東北高等学校が出場する。(3 回目)
平成 9 年	(1) 第 69 回選抜高等学校野球大会に平工業高等学校が出場する。(初出場) (2) 硬式に白河旭高校が加盟する。(加盟校 82 校) (3) 春季県大会の出場校数を各地区 4、計 24 校とする。 (4) 秋季県大会の出場校数を今大会に限り 29 校（相双 4、その他の地区 5）とする。 (5) 東北地区高野連事務局が 2 年毎の各県持ち回り制となり、福島県が 9 年・10 年担当する。福島工業高校に事務局を置く。（福島→山形→秋田→青森→岩手→宮城） (6) 夏の選手権大会の抽選方法が地区割、オープン制となる。 (7) 日米（ハワイ選抜）親善高校野球大会をいわきグリーンスタジアムで実施する。福島選抜 9－3 ハワイ選抜 (8) 東北地区高等学校野球連盟会長に永山三郎氏、理事長に菅野正昭氏が就任する。 (9) 日本高等学校野球連盟副会長に永山三郎氏が就任する。 (10) 第 79 回全国高等学校野球選手権福島大会は、81 校により、福島市・会津若松市・喜多方市で開催する。 (11) 第 79 回全国高等学校野球選手権大会に日大東北高等学校が出場する。(4 回目) (12) 第 4 回指導者講習会を日大東北高校視聴覚室で実施する。講師 太田垣耕造氏（全日本アマチュア野球連盟強化委員・元東京芝浦電気(株)野球部監督）

福島県高等学校野球連盟沿革史

年 度	内 容
平成10年	(1) 硬式に郡山東、尚志高校が加盟し、加盟校が84校となる。 (2) 第80回全国高等学校野球選手権大会記念事業として福島大会の始球式に甲子園に三回以上出場している学校の中から甲子園出場者を招待して始球式を行う。さらに入場口にアーチを作製する。勿来工業高校ブラスバンド部の演奏が流れる中、入場行進を行う。 (3) シート・ノック時の女子マネージャーのヘルメット着用を義務づける。 (4) 小中学生及び養護学校生の入場料を無料とする。 (5) 黒色の金属製バットの使用が認められる。 (6) 県大会での開催地区を県中、県南地区を単独開催地区とする。 (7) 自チームの生徒応援団席を現在の位置より正面スタンドよりにする。 1 塁側の場合は1 塁ベースよりライト側 3 塁側の場合は3 塁ベースよりレフト側 (8) 春季・秋季県大会の使用球場が離れている場合、球場勝ち上がり式の組合せ表とする。 (9) 東北大会での各校の校旗の掲揚と校歌の斉唱を行う。 (10) 各大会では自校の校歌が流れる中で、シート・ノックを行う。 (11) 野球の国際化にともない、球審はインサイドプロテクターを着用し、クロックワイズメカニズム方式を導入する。 (12) 第3回アジアAAA大会が大阪で開催され、菅野正昭理事長と助川隆一郎強化部長が大会を視察する。 また審判員の菅沼健仁郎氏（会津）が派遣される。 (13) 元県高野連理事長上条彌八氏が日本高野連表彰を受ける。 (14) 前理事長芳賀敬夫氏（前福島南）、元高野連理事故渋川博氏（喜多方女子高校教頭）、元白河高校野球部監督布川澄夫氏（前郡山）県高野連表彰を受ける。 (15) 第80回全国高等学校野球選手権福島大会は、83校により、福島市、郡山市、白沢村で開催する。 (16) 第80回全国高等学校野球選手権大会に三年連続日大東北高等学校が出場する。大会史上初の三連覇。（5回目） (17) 第5回県高野連指導者講習会＝全日本野球会議指導者講習会を開成山球場、日大東北高等学校で開催する。
平成11年	(1) 第8代事務局長に菅野均（福島商）が就任する。 (2) 硬式の部相馬農業高校飯舘分校が未加盟（加盟校84）。 (3) 過年度卒生（二浪の生徒）の大会参加資格を19才の選抜大会までとする。 (4) 明治神宮大会の出場校2校増し、10地区（東京独立区）の代表校とする。 (5) 秋季県大会の各地区出場校数は、加盟校数基準から地区予選出場校数を基準にする。 (6) 春・秋の県大会の入場料は大人のみとする。 (7) 責任教師が試合前のシートノック時にノックする場合ユニフォームを着用すること。 (8) 選手交代のためのファール地域でのキャッチボールは2組4人までとする。 (9) 秋季大会時において3年生記録部員のベンチ入りを認める。 (10) 捕手用急所カップの使用を義務づける。 (11) 第71回選抜高等学校野球大会に審判委員として菅沼健仁郎氏（会津）派遣される。 (12) 夏の大会の抽選方式をフリー抽選・球場後日決定方式を採用し、抽選会の翌日の午前中に決定し、各地区の事務局を通して各校に伝達する。前期日程5地区5球場、後期2地区4球場使用する。 (13) 夏の大会の始球式は各会場ごと、小学生による始球式を行う。 (14) 夏の大会の審判は、審判委員会を結成し、委員長に石井久雄、副会長に高野連会長と各地区野球連盟会長が当たる。審判経費は一括230万円を支払うこととする。 (15) 夏の大会甲子園視察は、2地区より4名（2泊3日）、相双、いわきよりローテーションで派遣する。 (16) 県高野連表彰は、今年より定年を待たずに抽選会の当日に表彰する。 (17) 日本高野連は、各県に「中学・少年野球育成担当理事」を選任することを要請、本県は、強化部長、副部長が当たることにした。 (18) 日本高野連は、米国ハワイ州へ東北選抜チームを全日本の代表として派遣する。本県より渉外・庶務担当に菅野正昭理事長（福島商）、監督に助川隆一郎（内郷）、選手伊藤真志（日大東北）、富田裕一（須賀川）、小野補（聖光学院）が選ばれる。 (19) 第30回明治神宮野球大会（高校の部）に福島商業高等学校出場、1回戦近畿代表兵庫育英高校に12対5、7回コールド、2回戦東京代表国士舘高校に0対2で惜敗する。 (20) 日台親善高校野球試合（明治神宮野球大会出場校より選抜）に福商から芳賀健投手と阿部道寛一塁手の2名が派遣選手として選抜される。（12月18日～27日） 日本高野連海外派遣選抜選手団本県出場者一覧

昭和38年	投手 青木 稔（磐 城）	全日本ハワイ選抜
昭和46年	監督 須永憲史（磐 城）	全日本ハワイ選抜
	投手 田村隆寿（磐 城）	〃
	遊撃 先崎史雄（磐 城）	〃
平成11年	監督 助川隆一郎（内 郷）	東北ハワイ選抜
	投手 富田裕一（須賀川）	〃
	投手 伊藤真志（日大東北）	〃
	一塁 小野 補（聖 光）	〃
	庶務 菅野正昭（理事長）	〃
平成11年	投手 芳賀 健（福島商）	全日本台湾選抜
	一塁 阿部道寛（福島商）	〃

年 度	内 容																																												
平成11年	(21) 県高野連会長永山三郎氏が日本高野連副会長を退任し顧問に就任、日本高野連より特別表彰を受ける。 (22) 県高野連は次の各氏を表彰する。 賀澤裕三（前好間高校長）、坪田 授（前福島商）、氏家武夫（前湯本）、蓬田英二（福島女子）、 鈴木 徳（前内郷）、菅野利男（保原）、高野光保（富岡）、中村 孝（福島南）、 故八槻 梓（元東白農商）、桑原 修（前喜多方商監督）、福地一雄（元聖光学院監督） (23) 秋季東北大会時（秋田市）に中学・少年野球育成担当理事東北ブロック懇談会が開催され、本県より助川隆一郎担当理事が参加する。 (24) 第81回全国高等学校野球選手権福島大会は、83校参加、前期日程5地区5球場、信夫ヶ丘、開成山、白河グリーン、あいづ、平球場、後期2地区4球場、開成山、しらさわグリーンパーク、白河グリーン、牡丹台球場を使用して開催する。 (25) 第81回全国高等学校野球選手権大会に学法石川高等学校が出場し、2回戦岡山理大付属高校に4対5で惜敗する。 (26) 第6回県高野連指導者講習会をビッグパレット福島で開催する。講師亜細亜大学野球部監督内田俊雄氏 (27) 日本学生野球協会優秀選手表彰に学法石川高校主将樟山光彦選手が選ばれる。 (28) 第72回選抜高等学校野球大会に福島商業高校選抜される。（12年1月31日 3回目）																																												
平成12年	(1) 第17代会長に村上實（福島商業高校長）が就任する。 (2) 硬式の部にいわき光洋、東日本国際大学附属昌平、喜多方東が加盟し、加盟校が85校となる。 (3) 準決勝、決勝戦の同日開催変則ダブルヘッダーの禁止、天候等による順延でやむを得ない場合投手は、準決勝、決勝のどちらかの試合にしか登板できない。 (4) 得点差によるコールドゲームは、5回10点、7回7点制に全国的統一が計られる。 (5) 延長回数は従来の18回から15回とし、春秋の大会は、引き分け再試合か抽選によって上位進出校を決定することができる。その適用は主催連盟に委ねられる。福島県ではすべて再試合とすることに決定する。全国高等学校野球選手権大会、同地方大会、選抜高等学校野球大会においては、引き分け抽選制度は採用しない。国民体育大会は9回で打ち切り引き分けとし、抽選制度を採用する。 コールドゲームの変遷 <table><tr><th rowspan="2">年</th><th colspan="2">得点差による</th><th rowspan="2">降雨、日没 6回半</th><th rowspan="2">延長回数</th><th rowspan="2">年</th><th colspan="2">得点差による</th><th rowspan="2">降雨、日没 6回半</th><th rowspan="2">延長回数</th></tr><tr><th>4回半</th><th>6回半</th><th>4回半</th><th>6回半</th></tr><tr><td>昭和24年</td><td>なし</td><td>8点</td><td>なし</td><td>18回</td><td>昭和54年</td><td>15点</td><td>8点</td><td>あり</td><td>18回</td></tr><tr><td>昭和38年</td><td>15点</td><td>8点</td><td>あり</td><td>18回</td><td>昭和57年</td><td>12点</td><td>7点</td><td>あり</td><td>18回</td></tr><tr><td>昭和41年</td><td>廃止</td><td>8点</td><td>あり</td><td>18回</td><td>平成12年</td><td>10点</td><td>7点</td><td>あり</td><td>15回</td></tr></table> (6) オーダー用紙は、登録選手20名全員を記載する用紙に変更する。 (7) 負傷選手は、試合に出場しない条件でベンチ入りを認める。 (8) 臨時代走者には、バッテリーを除外するように、高校野球特別規則が修正される。 (9) タイムの制限回数は、延長回に入ったときは、従来の3回毎に1回から、毎回タイムを取ることができるように改正された。 (10) 県高野連は3月15日よりホームページ、メールを開設し、13,000余のアクセス。 福島県高野連 HomePage http://www.bekkoame.ne.jp/ha/fskouyaren/ E-Mail fskouyaren@ha.bekkoame.ne.jp Tel 024(553)6663 Fax 024(553)6694 (11) 第82回福島大会の開閉会式の司会者は、初めて加盟高校生による司会進行を試み、湯本高校の犬津美穂（3年）、高橋絵美（3年）、遠藤裕子（2年）さんが務める。 (12) 全加盟校に甲子園の鷹と土がプレゼントされる。さらに甲子園への夢を託したメッセージと全部員の集合写真、署名を集め、大会期間中甲子園球場の資料館に展示される。 (13) 県高野連は、第82回全国高等学校野球選手権福島大会の抽選会の席上で表彰する。 審判員感謝状贈呈者 花澤興一（平地区） 箱崎正文（平地区） 県高野連永年功労賞贈呈者 佐々木昭宣（二本松工教諭） 黒澤元省（福島東教諭） 千葉修真（郡山北工教諭） 溝井清治（安積教諭） 益永孝元（日大東北教諭） 成田俊雄（あさか開成教諭） 故柳沢泰典（前学法石川野球部監督） 藤田善次（福島高専監督） 助川隆一郎（内郷教諭） 横田誠樹（双葉翔陽教諭） (14) 第72回選抜高等学校野球大会に福島商業高等学校が出場し（3回目）ベスト8に進出する。 (15) 第82回全国高等学校野球選手権福島大会は、83校参加、前期日程5地区5球場、あづま、開成山、白河グリーン、あいづ、押切川、いわきグリーン、後期日程2地区4球場、いわきグリーンをメイン球場、平、あいづ、押切川を使用して開催する。 (16) 第82回全国高等学校野球選手権大会に福島商業高校（19年ぶり8回目）が出場する。 (17) 第7回県高野連指導者講習会を各校の部員を対象にして日本大学野球部監督 鈴木博識氏、コーチ 五十嵐康朗氏、部員20人を講師に迎えて「基本技術講習および実践合同練習」を目的に2日間にわたって、あづま球場（県北、会津、相双地区）、さつき公園野球（県中、県南、相双地区）で開催する。 (18) 日本高等学校野球連盟は、医科学委員会と理学療法士・スポーツ傷害予防研究会の協力で、審判員のみなさんへの健康管理教本『審判員のコンディショニング』を作成し、各県の審判員に配布する。 (19) 日本学生野球協会優秀選手表彰に福島商業高校主将幕田寛之選手が選ばれる。	年	得点差による		降雨、日没 6回半	延長回数	年	得点差による		降雨、日没 6回半	延長回数	4回半	6回半	4回半	6回半	昭和24年	なし	8点	なし	18回	昭和54年	15点	8点	あり	18回	昭和38年	15点	8点	あり	18回	昭和57年	12点	7点	あり	18回	昭和41年	廃止	8点	あり	18回	平成12年	10点	7点	あり	15回
年	得点差による		降雨、日没 6回半	延長回数				年	得点差による			降雨、日没 6回半	延長回数																																
	4回半	6回半			4回半	6回半																																							
昭和24年	なし	8点	なし	18回	昭和54年	15点	8点	あり	18回																																				
昭和38年	15点	8点	あり	18回	昭和57年	12点	7点	あり	18回																																				
昭和41年	廃止	8点	あり	18回	平成12年	10点	7点	あり	15回																																				

年度

平成12年

内 容

(20) 選抜高等学校野球大会改革検討委員会は、第73回大会より従来の32校に「21世紀枠」2校を追加して選出することを提案し、大会運営委員会で決定される。「21世紀枠」の選考基準は「高校野球の理想的な姿を実践している学校や特色ある学校」とし、選考方法は各都道府県高野連が候補校1校選出、さらに全国9地区で第二次選考の審議をし、その結果を逐次公表する。

(21) 金属バット使用の制限について、2001年の秋季地区大会より新基準の金属バットに制限される。新基準の金属製バットは、メーカー各社は、1999年12月21日より市販する。

(22) テーブルスコアシートが夏の大会よりいわき地区でコンピュータ処理、さらに秋季県・東北大会でも実施。次年度より全地区で実施することになる。

県大会入場料の変遷

単位円

年	ネット裏大人	内野大人	高校生	中学生	小学生	応援団
昭和33年	70	50	30	30	20	10
昭和39年	80	60	40	40	20	10
昭和40年	100	50	30	30	20	10
昭和41年	100		50	50	20	10
昭和42年	100		50	30	30	10
昭和43年	100		60	30	30	10
昭和44年	100		50	30	30	10
昭和45年	150		50	20	20	10
昭和50年	200		100	100	50	20
昭和54年	300		〃	〃	〃	〃
昭和59年	400		〃	〃	〃	〃
平成3年	500		100	100	100	無料
平成9年	500		100	無料	無料	無料
平成11年	500		100	(夏の大会のみ)		

平成11年より春秋県大会の入場料は大人のみとする。

(23) 第73回選抜高等学校野球大会「21世紀枠」の東北地区候補校に、安積高校が選ばれ表彰される。(1月12日)

(24) 第73回選抜高等学校野球大会に安積高校が「21世紀枠」で選抜される。(1月31日)

平成13年

(1) 硬式の部に安積黎明、川口、磐城桜が丘高校が加盟(加盟校88)。

(2) 投手用ヘッドギアの練習での着用が義務づけられる。

(3) 県高野連は選抜高等学校野球大会21世紀枠候補選考委員会規定を制定する。

(4) 新基準適合金属製バットの使用が秋季地区大会より義務づけられる。

(5) 開会式直後の試合のトスは開会式終了後に行うことに統一する。

(6) 各県大会で使用するスコアシートをA4からB4版に変更し、延長15回まで記入できるものに変更する。

(7) 各県大会のテーブルスコアシートは、各地区ともにパソコン(埴工西尾秀和氏作成)で作成する。

(8) 5回のグラウンド整備時に「栄冠は君に輝く」を流すことにする。

(9) 第83回全国高等学校野球選手権大会参加校と部員数。

	加盟校	部員数	男子生徒数に占める部員比率
全国	4208校(25校増)	149622人(1207人増)	7.6% 149622/1970077
本県	88校(5校増)	3024人 (28人増)	7.8% 3024/38584

(10) 第83回福島大会より、甲子園と同じく開会式、閉会式の司会進行と入場行進の先導を高校生による運営方針にしたがって安積高校の佐久間裕之君と郡山高校の常松真登香さんが司会進行を、先導を日大東北の佐原辰徳君が務める。

(11) 第53回秋季東北地区高等学校野球福島県大会において、米国同時多発テロ事件を受け「米国テロ被害者追悼・お見舞の会」が9/23政府主催で開催されたことに伴い、県高野連は国旗、連盟旗を半旗掲揚とし、哀悼の意を表した。

(12) 第73回選抜高等学校野球大会に21世紀枠で安積高等学校が出場する。

(13) 県高野連は、第83回全国高等学校野球選手権福島大会の抽選会の席上で表彰する。

審判員感謝状贈呈者

山中 久夫(会津) 柏倉 克雄(会津) 鹿野 和恵(県北) 鈴木 寛伸(いわき)

松崎 秀雄(いわき) 菅波 吾市(相双)

県高野連永年功労賞贈呈者

加藤仁一郎(福島高校教諭) 中野 益雄(坂下高校教諭) 服部 昇(会津農林高校教諭)

菅野 正昭(福島商業高校教諭) 永山 亨生(平工業高校教諭) 西丸 勝(保原高校教諭)

菊池 正明(白河高校教諭) 渡部 巧(会津工業高校実習教諭) 緑川 和行(学法石川高校教諭)

須田健次郎(大沼高校野球部監督)

(14) 第83回全国高等学校野球選手権大会に聖光学院が出場する。(初出場)

(15) 第8回県高野連指導者講習会を各校の部員を対象にして法政大学野球部助監督 和田護氏、大須賀康浩コーチ、選手22人を講師に迎えて、あづま球場といわきグリーンスタジアムを会場にして2日間実施する。

(16) 日本学生野球協会優秀選手表彰に聖光学院高等学校野球部主将村上拓也選手が選ばれる。

年 度	内 容																																																																																																																				
平成13年	(17) 第74回選抜高等学校野球大会「21世紀枠」の福島県候補に、原町高校が選ばれ表彰される。(12月18日) (18) 春秋県大会出場校数の変遷 <table><tr><th colspan="2">春季県大会</th><th colspan="2">秋季県大会</th></tr><tr><td>S55年まで</td><td>各地区1、開催地区3</td><td>S49年まで</td><td>各地区1、開催地区3</td></tr><tr><td>S56～58年まで</td><td>相双1、その他2、開催地区3</td><td>S50～58年まで</td><td>開催地区3、相双1、その他2</td></tr><tr><td>S59～62年まで</td><td>各地区2</td><td>S59～62年まで</td><td>各地区2</td></tr><tr><td>S63～H8年まで</td><td>各地区3</td><td>S63～H7年まで</td><td>各地区3</td></tr><tr><td>H9～11年まで</td><td>各地区4</td><td>H8～10年まで</td><td>相双4、その他地区5</td></tr><tr><td>H12年～</td><td>地区大会出場校数 ×0.3を四捨五入</td><td>H11年～</td><td>地区大会出場校数 ×0.3を四捨五入</td></tr></table> (19) 春季東北大会出場校数(秋季大会は平成8年より3校出場) <table><tr><th>年度</th><th>開催県</th><th>青森</th><th>秋田</th><th>岩手</th><th>山形</th><th>宮城</th><th>福島</th></tr><tr><td>H11</td><td>青森</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>12</td><td>山形</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td></tr><tr><td>13</td><td>宮城</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>4</td><td>3</td></tr><tr><td>14</td><td>秋田</td><td>2</td><td>4</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>15</td><td>福島</td><td>2</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>16</td><td>岩手</td><td>3</td><td>2</td><td>4</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td></tr><tr><td>17</td><td>宮城</td><td>2</td><td>3</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>2</td></tr><tr><td>18</td><td>青森</td><td>4</td><td>2</td><td>3</td><td>2</td><td>3</td><td>2</td></tr><tr><td>19</td><td>山形</td><td>2</td><td>3</td><td>2</td><td>4</td><td>2</td><td>3</td></tr><tr><td>20</td><td>秋田</td><td>3</td><td>4</td><td>2</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td></tr></table> (20) 学法石川高等学校野球部総監督故柳沢泰典教諭に労災が認定される。平成11年8月14日甲子園球場で第81回全国高等学校野球選手権大会、1回戦学法石川高校と岡山理大附属の試合を観戦中倒れ、8月22日に、くも膜下出血のため急死。須賀川労働基準監督署は、平成14年1月31日に労働災害と認定した。ご冥福をお祈りいたします。 (21) 兵庫県西宮市鳴尾浜で開催された全国審判講習会「審判フォーメーション・ゼスチャーの統一説明会」に小山田芳氏(相双地区審判員)を派遣する。(H14.2.10)	春季県大会		秋季県大会		S55年まで	各地区1、開催地区3	S49年まで	各地区1、開催地区3	S56～58年まで	相双1、その他2、開催地区3	S50～58年まで	開催地区3、相双1、その他2	S59～62年まで	各地区2	S59～62年まで	各地区2	S63～H8年まで	各地区3	S63～H7年まで	各地区3	H9～11年まで	各地区4	H8～10年まで	相双4、その他地区5	H12年～	地区大会出場校数 ×0.3を四捨五入	H11年～	地区大会出場校数 ×0.3を四捨五入	年度	開催県	青森	秋田	岩手	山形	宮城	福島	H11	青森	4	3	2	3	2	2	12	山形	2	2	3	4	3	2	13	宮城	3	2	2	2	4	3	14	秋田	2	4	3	3	2	2	15	福島	2	3	2	2	3	4	16	岩手	3	2	4	2	2	3	17	宮城	2	3	2	3	4	2	18	青森	4	2	3	2	3	2	19	山形	2	3	2	4	2	3	20	秋田	3	4	2	3	2	2
春季県大会		秋季県大会																																																																																																																			
S55年まで	各地区1、開催地区3	S49年まで	各地区1、開催地区3																																																																																																																		
S56～58年まで	相双1、その他2、開催地区3	S50～58年まで	開催地区3、相双1、その他2																																																																																																																		
S59～62年まで	各地区2	S59～62年まで	各地区2																																																																																																																		
S63～H8年まで	各地区3	S63～H7年まで	各地区3																																																																																																																		
H9～11年まで	各地区4	H8～10年まで	相双4、その他地区5																																																																																																																		
H12年～	地区大会出場校数 ×0.3を四捨五入	H11年～	地区大会出場校数 ×0.3を四捨五入																																																																																																																		
年度	開催県	青森	秋田	岩手	山形	宮城	福島																																																																																																														
H11	青森	4	3	2	3	2	2																																																																																																														
12	山形	2	2	3	4	3	2																																																																																																														
13	宮城	3	2	2	2	4	3																																																																																																														
14	秋田	2	4	3	3	2	2																																																																																																														
15	福島	2	3	2	2	3	4																																																																																																														
16	岩手	3	2	4	2	2	3																																																																																																														
17	宮城	2	3	2	3	4	2																																																																																																														
18	青森	4	2	3	2	3	2																																																																																																														
19	山形	2	3	2	4	2	3																																																																																																														
20	秋田	3	4	2	3	2	2																																																																																																														
平成14年	(1) 第18代会長に齋藤義人(福島商業高校長)が就任する。 (2) 第2代記録部長に住谷義直(平商)が就任する。 (3) 硬式の部に葵、会津学鳳、富岡の各高校が加盟(91校) (4) 学校五日制導入に伴う休業日等の設定。 (5) 飛球事故見舞金救済制度の設立。 (6) アマチュア野球特別指導事項の廃止(投手の山なり牽制球) (7) 高校野球用具の使用制限の改正 ・エルボーガードとレッグガードの制限廃止 ・メッシュ シースルーユニホームの留意点 ・ストッキングの商標規制 ・つや消しヘルメットの承認 ・サングラスの商標の取り扱い ・守備時の手袋の使用制限緩和 ・スパッツ系のアンダーシャツ(14年度の経過を見て改めて検討) (8) 第84回全国高等学校野球選手権福島大会の抽選会の席上で表彰する。 審判感謝状贈呈者 斉藤 功(県北) 佐藤 彰男(県北) 吉田 守男(県南) 星 博(会津) 田中 成雄(いわき) 布施 雅徳(磐南) 県高野連永年功労者贈呈者 伊深 昭司(福島工業高校教諭) 石田 秀敏(福島女子高校教諭) 半澤 信孝(盲学校職員) 久保田晴彦(帝京安積高校教諭) 小林 直喜(日大東北高校教諭) 東城 一郎(岩瀬農業高校教諭) 横山 重(須賀川桐陽高校教諭) 大塚 久泰(会津工業高校教諭) 相原登司輔(好間高校教諭) 深谷 修司(磐城第二高校教諭) 作山 博邦(双葉高校教諭) 佐々木 明(若松第一高校教諭) (9) 第84回全国高等学校野球選手権大会に日大東北高校が出場 (10) 各球場に喫煙所を設置し、観客席での喫煙を禁止する。(本部席・記者席等含) (11) 第9回県高野連指導者講習会を各校の部員を対象にして東海大学野球部を講師に迎えて、あづま球場といわきグリーンスタジアムを会場にして2日間実施する。 (12) 福島県高等学校野球連盟優秀部員表彰の制定。 (13) 福島県高等学校野球連盟選抜チームの海外遠征(台湾)役員11名・選手18名が、平成15年1月5日～12日の8日間(高雄・台北)で、親善試合6試合を行なう。(対戦校：三民中高・高苑工商・南英商工・穀保家商(2試合)・強恕中学) (14) 日本学生野球協会優秀選手に高田敦主将(日大東北高校)を表彰。 (15) 第75回選抜高等学校野球大会「21世紀枠」の福島県候補に、福島高校が選ばれ表彰される。(12月6日)																																																																																																																				

年 度	内 容
平成14年	(16) 軟式野球大会の名称変更について 第47回全国高等学校軟式野球選手権大会奥羽地方予選大会 〃 北東北大会 に改める 第47回全国高等学校軟式野球選手権大会東北地方予選大会 〃 南東北大会 に改める
平成15年	(1) 新規加盟校、橘、福島南、相馬東3校が加盟し、今年度の加盟校は、硬式93校。軟式7校の計100校となる。 (2) 球場後日決定方式を三回戦にも適用する。 (3) 春、秋季県大会の開会式が雨天の場合、条件が整えばその日の内に体育館を利用して行なう。ただし、夏の選手権大会は第一日目が雨天の場合は1日延期とし、2日目も雨天の場合は体育館で開会式を行なう。 (4) ゲームのスピード化を図るため、あづま球場・いわきグリーンスタジアムではブルペン付近にボールボーイを配置する。服装は正規のユニホームとする。 (5) 7月から中学生の体験入学を実施する。 (6) ネット裏でのビデオ撮影を禁止する。 (7) 第85回全国高等学校野球選手権記念福島大会の抽選会の席上で表彰する。 都道府県表彰（記念大会） 芳賀 敬夫 高校野球指導者表彰（イヤーオブコーチ表彰） 本多 正敬 福島県高野連功労表彰 櫻井 隆雄（安達高校教諭） 渡辺 好（富岡高校教諭） 藤森 省一（川口高校教諭） 宗像 治（福島商業高校教諭） 関川 博巳（梁川高校教諭） 佐藤 恭輔（福島工業高等専門学校教授） 森川 治（福島工業高等専門学校教授） 福島県高野連審判功労表彰 斉藤 忠（県北） 佐藤 睦（県中） 柳沼甚四郎（県南） 広岡 和夫（会津） 渡辺 一秀（相双） 草野 耕治（いわき） (8) 第85回全国高等学校野球選手権記念大会に日大東北高校が出場 (9) 第10回県高野連指導者講習会を各校の部員を対象にして東海大学野球部を講師に迎えて、あづま球場と いわきグリーンスタジアムを会場にして2日間実施する。 (10) 第76回選抜高等学校野球大会「21世紀枠」の福島県候補に、光南高校が選ばれ表彰される。（12月3日） (11) 日本学生野球協会優秀選手に郡司忠主将（日大東北）を表彰。
平成16年	(1) 第19代会長に三好祥夫（福島商業高校長）が就任する。 (2) 第11代理事長に宗像 治（福島商）が就任する。 (3) 第5代審判部長に伊深昭司（福島工）が就任する。 (4) 第2代強化部長に関川博巳（福島東）が就任する。 (5) 第86回全国高等学校野球選手権福島大会の抽選会の席上で表彰する。 ○日本高等学校野球連盟功労者表彰 菅野 正昭（福島商業） ○イヤーオブザコーチ表彰 黒沢 昌義 ○福島県高野連功労者表彰 遠藤 直仁（聖光学院） 菅野 均（福島商） 帆足 勉（郡山北工） 太田 雄弘（学法石川） 岡田 敦（遠 野） 山崎 雅弘（磐 城） 酒井 良雄（新 地） ○福島県高野連審判功労者表彰 中川 孝（県 北） 荒井 康裕（県 北） 植谷 功（県 中） 先崎 邦安（県 中） 遠藤 葵（県 南） 三瓶 洋（県 南） 長谷川新一（会 津） 青山 克己（いわき） 吉田 磐夫（磐 南） (6) 第86回全国高等学校野球選手権大会に聖光学院高校が出場。 (7) 輪番制の全国高等学校野球選手権大会派遣事業を今年度より廃止。 (8) 第77回選抜高等学校野球大会「21世紀枠」の福島県候補に、田村高校が選ばれ表彰される。（12月10日） (9) 日本学生野球協会優秀選手に松崎克哉主将（聖光学院）を表彰。 (10) 県高野連強化技術講習会を各校の部員を対象にして、J R 東日本東北野球部を講師に迎え、あづま球場・いわきグリーンスタジアムを会場とし2日間実施する。 (11) 県高野連指導者講習会を日大東北高校を会場にして、聖光学院高校野球部監督 斎藤智也氏、平成スポーツトレーナー専門学校長 魚住廣信氏を講師に迎えて、開催した。
平成17年	(1) 第87回全国高等学校野球選手権福島大会の抽選会の席上で表彰する。 ○イヤーオブザコーチ表彰 室井 克己 ○福島県高野連功労表彰 佐藤 譲敬（郡山東） 田中 誠（安積） 六角 孝夫（田村） 小林 修（白河実） 大竹 伸二（清陵情報） 住谷 義直（平商） 佐々木 宏（四倉） ○福島県高野連審判功労表彰 村上 政信（県北） 桑田 一美（県北） 鈴木 喜八（県中） 桑山 義嗣（県中） 渡部 泰夫（県南） 高野 喜由（県南） 佐藤 征夫（会津） 高木 昌祺（相双） (2) 第87回全国高等学校野球選手権大会に聖光学院高校が出場。 (3) 秋季福島県大会の要項改正、全国高等学校野球選手権大会において1勝以上した高校は秋季地区大会の出場を免除し県大会から出場とする。本年度より実施。（聖光学院が適応となる。）但し、各地区の県大会

年 度	内 容
平成17年	出場枠の変更はしない。 (4) 第78回選抜高等学校野球大会「21世紀枠」の福島県候補に、光南高校が選ばれ表彰される。(12月10日) (5) 日本学生野球協会優秀選手に川戸将史主将(聖光学院)を表彰。 (6) 県高野連強化技術講習会を各校の部員を対象にして、J R 東日本東北野球部を講師に迎え、「投手・捕手の基本技術講習」について、あづま球場・いわきグリーンスタジアムを会場として2日間実施する。 (7) 県高野連指導者講習会をユラックス熱海で2月3日・4日の2日間にわたり開催した。講師として、聖光学院高校野球部監督 斎藤智也氏、元古川商業高校女子バレーボール部監督 国分秀男氏、福島大学陸上部監督 川本和久氏が講演した。
平成18年	(1) 第3代強化部長に櫻井隆雄(安達)が就任する。 (2) 第88回全国高等学校野球選手権福島大会の抽選会の席上で表彰する。 ○育成功労賞(イヤーオブザコーチ)表彰 蓬田 英二 ○福島県高野連功労表彰 鈴木 公一(郡山商) ○福島県高野連審判功労表彰 阿部 孝則(県北) 佐々木俊弥(県北) 田母神芳美(県中) 渡辺 勝(県中) 矢吹 誠次(県南) 大友 俊一(会津) 舟戸 国夫(磐南) 水野 勝則(磐南) (3) 春・秋季県大会参加校数を32校に固定する。 地区大会参加校数÷3(切り上げ 地区上限6校) (4) 第88回全国高等学校野球選手権大会に光南高校が初出場。 (5) 今年度の第88回全国高等学校野球選手権福島大会より選手宣誓を各高校の主将の希望で応募させ抽選で選出し、白河高校主将が宣誓を行った。 (6) 第79回選抜高等学校野球大会「21世紀枠」の福島県候補に、会津農林高校が選ばれ表彰された。(12月8日) (7) 日本学生野球協会優秀選手に市川裕太主将(光南)を表彰。 (8) 県高野連強化技術講習会を各校の部員を対象に開催。J R 東日本東北野球部を講師に迎え、あづま球場・いわきグリーンスタジアムで実施。 (9) 県高野連指導者講習会をユラックス熱海で1月26・27日に行う。講師に光南高校野球部監督 菅波智之氏、イエローハット相談役 鍵山秀三郎氏、広島商業高校野球部監督 川本幸生氏が講演。 (10) 第79回選抜高等学校野球大会に聖光学院高校が選抜される。(19年1月26日 初)
平成19年	(1) 第20代会長に荒 盛一(福島商業高校校長)が就任する。 (2) 公益法人制度への移行準備委員会を設置する。 (3) 2007年度ルール改正点 6・09(b) 区画線表示改正で、ダートサークルができる 8・01(a)(b) 日本とアメリカでの適用が異なっていたことを改正 8・04 20秒以内を12秒以内 (4) 2007年度ルール適用上の解釈の変更 打球または送球でユニホームの中に入り込んだ場合……走者はアウトにされることはない。 ボールがグラブにはさまったケース……ボールは生きている(インプレイ) (5) 日伯親善高校野球大会「県営あづま球場」で開催(19.5.15) 県選抜(県中・県南・いわき)選手18名と県選抜(県北・会津・相双)選手18名2チーム編成がブラジル選抜高校チーム選手18名と親善試合を行う。 (6) 県高校野球連盟地区の名称を支部と改める。 (7) 第89回全国高等学校野球選手権福島大会の抽選会の席上で表彰する。 ○育成功労賞(イヤーオブザコーチ)表彰 鈴木 徳 ○福島県高野連功労表彰 斎藤 智也(聖光学院) 宗像 忠典(日大東北) 小島 直之(大沼) 鈴木 茂(平工) ○福島県高野連審判功労表彰 前野 栄(県北) 栗城 信男(県中) 小池 邦恭(県中) 遠藤 弘次(県南) 大竹 康熙(会津) 青木 幸則(会津) 野木 芳信(いわき) (8) 第89回全国高等学校野球選手権大会に聖光学院が出場。3回戦進出。第62回国民体育大会(秋田わか杉国体)出場。 (9) 第80回選抜高等学校野球大会「21世紀枠」の福島県候補に、小高工業高校が選ばれ表彰された。(11月26日) (10) 日本学生野球協会優秀選手に高橋晋平主将(聖光学院)を表彰。 (11) 県高野連強化技術講習会を各校の部員を対象に開催。日立製作所野球部を講師に迎え、あづま球場・いわきグリーンスタジアムを会場として2日間実施する。 (12) 第80回選抜高等学校野球大会に聖光学院高校が選抜される。(20.1.25) (13) 県高野連指導者講習会を磐梯熱海で1月25・26日の2日間実施する。 講 演(1日目) 講師:滝口 博之 「メジャーリーグ流野球指導」 講師:新井田 傳 「人生の勝利者を目指して」 実技講習(2日目) 元プロ野球選手 講師:高橋 直樹 高橋 一三 種茂 雅之 辻 恭彦 森 徹(アドバイザー)
平成20年	(1) 第90回全国高等学校野球選手権記念大会で表彰する。 ○育成功労賞(イヤーオブザコーチ)表彰 氏家武夫

年 度	内 容
平成20年	(2) 第90回全国高等学校野球選手権記念大会の抽選会の席上で表彰する。 ○福島県高野連功労表彰 菅野 京一(葵) 佐藤 守孝(若松商) 渡部 孝志(会津工) ○福島県高野連審判功労表彰 伊藤 健一(県北) 大竹 進(県中) 小針 孝広(県南) 桜井 和則(県南) 岩本 郁夫(県南) 阿部 晋(相双) 菅野 喜一(相双) 久保田光弘(いわき) 横江 武司(いわき) 猪狩 嘉之(磐南) 大野 徹(磐南) (3) 都道府県表彰は石井久雄様(前福島県野球連盟会長)が表彰される。 (4) 第90回全国高等学校野球選手権記念大会に聖光学院高校が出演。ベスト8進出。第63回国民体育大会(チャレンジ！おおいた国体) 出場。 (5) 第90回全国高等学校野球選手権記念大会は、決勝当日に抽選をした。 (6) 第81回選抜高等学校野球大会「21世紀枠」の福島県候補に、田島高校が選ばれ表彰された。(11月25日) (7) 日本学生野球協会優秀選手に黒羽剛広主将(聖光学院)を表彰。 (8) 県高野連強化技術講習会を各校の部員を対象に開催。元プロ野球選手を講師に迎え、あづま球場・いわきグリーンスタジアムで実施。 講師：森 徹、若生智男、島田源太郎、池谷公二郎、遠藤一彦、辻 恭彦、和田 徹 (9) 県高野連指導者講習会をホテル華の湯で1月23・24日に行った。講師は、聖光高校野球部監督 齋藤智也氏、日本高野連常任理事・審判規則委員会委員長 木嶋一黄氏、日本大学大学院・総合科学研究科・生命科学専攻主任教授 林成之氏。 (10) 高校野球・甲子園塾が開設され、強化部会の推薦で四倉高校監督、大友研也氏が参加。3月6～8日。 (11) 特待生制度に課題が生じ改善がなされた。本県の私立校7校採用。 (12) アウトオブシーズンの期間(12/1から3/20)で、練習試合の解禁日は3月8日。 (13) 秋季県大会は、今年度より2支部4球場で開催することとし、第60回秋季東北地区高等学校野球福島県大会は、県北(あづま・信夫ヶ丘)と県中(開成山・しらさわグリーンパーク)で開催をした。 (14) 今年度より①会計の一元化②加盟校校長へ招待券の配付③入場券の一括印刷 ④秋季県大会よりプログラムのA4判化(200円→300円へ)を行った。
平成21年	(1) 第21代会長に岩淵賢美(福島商業高校長)が就任する。 (2) 第6代審判部長に関川博巳(福島東)が就任する。 (3) 第91回全国高等学校野球選手権福島大会の抽選会の席上で表彰する。 ○育成功労賞 表彰 菅野利男 (4) 第91回全国高等学校野球選手権福島大会の抽選会の席上で表彰する。 ○福島県高野連功労表彰 柳沼 誠(清陵情報) 栗城 一郎(会津農林) ○福島県高野連審判功労表彰 秋山 孝夫(県北) 須田 信男(県北) 加藤 善三(県北) 橋本 隆一(県中) 佐久間初男(県中) 矢野 孝次(県中) 鈴木 健矢(県南) 矢口 恵(県南) 江川 彦一(会津) 牛木 勤(会津) 林部 悦夫(会津) 渡部 博之(いわき) 秋山 善彦(いわき) 小山田 芳(相双) 秋元 公夫(相双) 北郷 一義(相双) (5) 第91回全国高等学校野球選手権大会に聖光学院高校が出演。 (6) 第82回選抜高等学校野球大会「21世紀枠」の福島県候補に、福島高校が選ばれ表彰された。(11月24日) (7) 日本学生野球協会優秀選手に松本 剛主将(聖光学院)を表彰。 (8) 県高野連強化技術講習会を各校の部員を対象に開催。J R 東日本東北の選手を講師に迎え、いわきグリーンスタジアム・あづま球場で実施。 講師 服部 隆コーチ始め、19名の選手・コーチ(本県出身者 樫 康裕：安達高) (9) 県高野連指導者講習会を2月6・7日に行った。 講師 香田誓士史(駒澤大学附属苫小牧高等学校元野球部監督)・田名部和裕(日本高野連特命嘱託〔元事務局長〕)・山口 良治(京都市立伏見工業高等学校ラグビー部総監督) 甲子園塾参加者の報告 大友研也(四倉)・田中巨人(双葉) (10) 高校野球・甲子園塾に本年度は、推薦で双葉高校監督、田中巨人氏が参加。12月18日～20日 (11) 2009年度規則改正 ・ストライクゾーンの下限に関して「ひざ頭の下部のラインを下限とする」と改める。 ・ヘルメットの着用義務 (ア) ベースコーチは、攻撃期間中、コーチスボックス内において着用。 (イ) 打者、走者とも、攻撃期間中、両耳フラップヘルメットを着用。 ・ミットを動かすな運動の展開…マナーアップ・フェアプレイから左記運動の推進 (12) 高野連主な改善点 ・全国高等学校野球選手権福島大会のプログラムを今年度より500円とする。 ・延長戦に入る場合のグラウンド整備を廃止する。 ・球場内のペット持ち込みは原則禁止する。 ・秋季県大会の日程を一週遅くする。 ・夏の大会のプログラムに校歌と全加盟校の3年生部員の名前を掲載する。 ・試合担当の高野連審判部員を各球場に割り当てた。
平成22年	(1) 第92回全国高等学校野球選手権福島大会の抽選会の席上で表彰する。

年 度	内 容
平成22年	○育成功労賞 表彰 故 助 川 隆一郎 (2) 第92回全国高等学校野球選手権福島大会の抽選会の席上で表彰する。 ○福島県高野連功労表彰 安齋 守 (福島南) 渡辺 真也 (福島南) 大橋 徹 (安 積) 佐川 公一 (あさか開成) 真壁伊佐男 (会津学鳳) 山口 昌男 (若松商) 小野寺敏和 (喜多方桐桜) 小林 好次 (会津農林) 遠藤 太 (磐 城) 荒 峰雄 (平 工) 服部 芳裕 (双葉翔陽) 志賀 健彦 (富 岡) ○福島県高野連審判功労表彰 添田 義美 (県中) 佐藤 登 (県中) 柏原 康男 (県中) 梅津 昭夫 (県中) 古河 孝一 (県中) 深谷 忠一 (県南) 近藤 利勝 (県南) 森 正 (県南) 佐藤 功 (会津) 渡部二三彦 (会津) 古市 博美 (いわき) 箱崎 利治 (磐南) 情野 博 (磐南) 大久保和夫 (相双) 鈴木 高四 (相双) 磯辺 正一 (相双) (3) 第92回全国高等学校野球選手権大会に聖光学院高校が出場。ベスト8進出。第65回国民体育大会 (ゆめ半島千葉国体) 出場。 (4) 第83回選抜高等学校野球大会「21世紀枠」の福島県候補に、原町高校が選ばれ表彰された。(11月24日) (5) 日本学生野球協会優秀選手に村島大輔主将 (聖光学院) を表彰。(1月17日) (6) 県高野連強化技術講習会を各校の部員を対象に開催。七十七銀行の選手を講師に迎え、あづま球場・いわきグリーンスタジアムで実施。 講師 杉森 智幸コーチ始め、20名の選手・コーチ陣 (7) 県高野連指導者講習会を2月5・6日に郡山市ホテル華の湯で行った。 講師陣 遠藤 友彦 (ゴーアヘッドジャパン代表)・阿奈 靖雄 (クリエイトANA代表) 渡邊 幹彦 (日本鋼管病院スポーツ整形外科部長) 大歳 憲一 (福島県立医科大学整形外科) 松澤 恵美 (郡山健康科学専門学校) 甲子園塾参加者 森田 健二 (平商) (8) 高校野球・甲子園塾に本年度は、推薦で平商業高校監督、森田健二氏が参加。11月19日～21日 (9) 2010年度規則改正 ・追加 8.01 (f) ・「キャッチャーボックスから出ない運動」の推進 ・ストライク、ボールのカウント方法の変更 (10) プロ野球現役選手によるシンポジウム「夢の向こうに in 福島」を12月11日(土)福島県文化センターで開催した。 ・東北楽天ゴールデンイーグルス 永井 怜 (投手)・聖澤 諒 (外野手)・伊志嶺 忠 (捕手) ・東京ヤクルトスワローズ 中澤 雅人 (投手)・田中 浩康 (内野手)・飯原 誉士 (外野手) 参加者：県内各加盟校1、2年生約2,000名 (11) 福島県高等学校野球連盟史 (Ⅱ) の発刊祝賀会 (福島市ホテル辰巳屋) 2月19日(土)
平成23年	(1) 第22代会長に菅野貴夫 (福島商業高校長) が就任する。(震災により8月から) (2) 第9代事務局長に深瀬武彦 (福島商) が就任する。(4月から) (3) 第93回全国高等学校野球選手権福島大会の抽選会の席上で表彰する。 ○育成功労賞 表彰 藤田善次 (4) 第93回全国高等学校野球選手権福島大会の抽選会の席上で表彰する。 ○福島県高野連功労表彰 赤城 章夫 (福島明成) 濱津 信哉 (岩瀬農) 山崎 剛 (磐城桜が丘) ○福島県高野連審判功労表彰 小野 公男 (県北) 森 一 (県北) 橋本 友司 (県中) 滝田 松男 (県中) 阿部 博 (県中) 小林 清美 (県南) 鈴木 邦敏 (会津) 目黒 幸男 (会津) 新田 忠信 (会津) 岩本 和盛 (会津) 川上 治夫 (会津) 黒澤 政勝 (いわき) 佐藤 優一 (いわき) 加藤 敬夫 (磐南) 若林 満男 (相双) 津田 茂 (相双) (5) 第93回全国高等学校野球選手権大会に聖光学院高校が出場。 (6) 第84回選抜高等学校野球大会「21世紀枠」の福島県候補に、小高工業高校が選ばれ表彰された。(11月24日) (7) 日本学生野球協会優秀選手に小澤宏明主将 (聖光学院) を表彰。(1月23日) (8) 県高野連強化技術講習会を各校の部員を対象に開催。日本製紙石巻の選手を講師に迎え、あづま球場・いわきグリーンスタジアムで実施。 講師 木村 泰雄監督始め、27名の選手・コーチ (9) 県高野連指導者講習会を2月4・5日に行った。 講師陣 塩崎 凱也 (㈱エヌ・ティ・ジー大阪虎屋相談役) 根本 良一 (前矢祭町長) 我喜屋 優 (興南高校野球部監督) 大歳 憲一 (県医科大学助教授) 嶋原 智彦 (県医科大学附属病院理学療法士) 今野 裕樹 (南東北福島病院理学療法士) 甲子園塾参加者 齋藤辰也 (西会津) (10) 高校野球・甲子園塾に本年度は、推薦で西会津高校監督、齋藤辰也氏が参加。12月3日～5日 (11) 東日本大震災による措置 ア) 大会参加特別措置 抜粋

年 度	内 容
平成23年	・連合チームによる参加を認められた。(第93回夏の福島大会 相双連合-双葉翔陽・富岡・相馬農) (第63回秋季県大会 相双福島-双葉・原町・相馬農) ・転学しても、すぐ大会参加資格が得られた。(県内外とも) イ) 放射能による大会実施の是非を、放射能対策講習会(6月13日)に開催し、その後慎重審議の重ね、6月23日に最終決定し、第93回全国高等学校野球選手権福島大会を開催した。 ウ) 大会運営について ・第63回春季東北地区高等学校野球大会(東北・県・支部)を中止した。 ・第93回全国高等学校野球選手権福島大会は入場無料とした。 ・同開会式へ避難された方々をご招待し、球児たちのはつらつとした入場行進等を見て頂いた。 ・同開会式の進行について放射能等を考慮し簡素化した。 ・同大会は、各球場で早朝放射能を測定しその結果を参考に開始した。 ・第63回秋季東北地区高等学校野球大会(支部のみ)入場料を無料とした。 (12) 第84回選抜高等学校野球大会に聖光学院高校が選出される。(大会は3月21日～)
平成24年	(1) 第4代強化部長に六角孝夫(郡山東)が就任する。 (2) 第94回全国高等学校野球選手権福島大会の抽選会の席上で表彰する。 ○育成功労賞 表彰 服部 昇 (3) 第94回全国高等学校野球選手権福島大会の抽選会の席上で表彰する。 ○福島県高野連功労表彰 鈴木 利栄(福島東) 廣瀬 修一(福島工) 相馬 伸介(郡山商) 箭内 寿之(白河) ○福島県高野連審判功労表彰 高橋 芳市(県北) 安斉 弘(県北) 星 正則(県南) 矢吹 正男(県南) 関根 加一(県南) 目黒 雄次(会津) 菅沼健仁良(会津) 小椋 幸五(会津) 横山 清一(会津) 青木登樹男(会津) 大坂 悌造(会津) 佐藤 勇一(いわき) 矢吹 健(いわき) 遊佐 秀夫(磐南) 大沼 富男(磐南) (4) 第94回全国高等学校野球選手権大会に聖光学院高校が出場。 (5) 第85回記念選抜高等学校野球大会「21世紀枠」の東北代表候補に、いわき海星高校が選ばれ表彰され(12月14日)、同校が「21世紀枠」で選出され、また、聖光学院高校が東北代表で選出され、上記大会へ出場。(1月25日) (6) 日本学生野球協会優秀選手に氏家颯俊主将(聖光学院)を表彰。 (7) 県高野連強化技術講習会を各校の部員を対象に開催。日本製紙石巻の選手を講師に迎え、あづま球場・いわきグリーンスタジアムで実施。 講師 木村 泰雄監督はじめ、25名の選手・コーチ (8) 県高野連指導者講習会を2月2・3日に行った。 講師陣 佐藤 和也(新潟明訓高校前監督) 高野 俊哉(福島銀行執行役員郡山営業本部長) 村上 和雄(財団国際科学振興財団バイオ研究所長 筑波大学名誉教授) 大歳 憲一(福島県立医科大学助教授) 嶋原 智彦(福島県立医科大学附属病院理学療法士) 四家 卓也(福島労災病院理学療法士) 甲子園塾参加者 渡辺 純(いわき光洋) (9) 高校野球・甲子園塾に本年度は、推薦でいわき光洋高校部長 渡辺 純が参加。11月23日～25日 (10) 東日本大震災による措置 ア) 大会参加特別措置 抜粋 ・連合チームによる参加を認められた(第94回相双福島-双葉・相馬農業・原町) (秋の大会も相双福島-双葉・相馬農業・原町) イ) 大会運営について ・第64回春季東北地区高等学校野球大会(支部)のみ入場料を無料とした。 ・第64回秋季東北地区高等学校野球大会(支部)のみ入場料を無料とした。 (11) 聖光学院高校県内公式戦81連勝中である。
平成25年	(1) 第23代会長に喜多見薫(福島商業高校長)が就任する。 (2) 第95回全国高等学校野球選手権記念福島大会の抽選会の席上で表彰する。 ○都道府県育成功労賞 表彰 花澤 興一 ○育成功労賞 表彰 西丸 勝 (3) 第95回全国高等学校野球選手権記念福島大会の抽選会の席上で表彰する。 ○福島県高野連功労表彰 鈴木 高浩(福島南) 菅原 裕一(福島商) 吉見 出 福田 俊彦(郡山北工) 渡部 宏(葵) 渡部 昌二(喜多方) 若林 亨(いわき海星) ○福島県高野連審判功労表彰 遊佐 幸久(県北) 佐藤 正一郎(会津) 薄 久一(会津) 渡部 文雄(会津) 荒井 文吉(会津) 山内 茂樹(相双) 荒井 和義(相双) 永塚 政美(いわき) 根本 演之(いわき) 栗原 久治(磐南) (4) 第95回全国高等学校野球選手権記念大会に聖光学院高校が出場。 (5) 第86回選抜高等学校野球大会「21世紀枠」福島県候補に須賀川高校が、選ばれ表彰された。(11月20日) (6) 日本学生野球協会優秀選手に主将(聖光学院)伊藤 颯を表彰。

年 度	内 容
平成25年	(7) 県高野連強化技術講習会を各校の部員を対象に開催。日本製紙石巻の選手を講師に迎え、あづま球場・開成山球場・いわきグリーンスタジアムの3会場で実施。 講師 木村泰雄 監督始め、28名の選手・コーチが3日間、各会場で熱心なご指導を頂いた。 (8) プロ野球現役選手によるシンポジウム「夢の向こうに」in福島をいわきグリーンスタジアムで、12月21日に開催。 コーディネーター3名 水上 善雄（福岡ソフトバンクホークスコーチ） 工藤 公康（評論家） 田口 壮（評論家） 実技指導パネリスト 【投手】4名 佐藤 勇（埼玉西武ライオンズ） 唐川 侑己（千葉ロッテマリーンズ） 小松 聖（オリックスバファローズ） 根本 朋久（北海道日本ハムファイターズ） 【捕手】2名 中田 祥多（北海道日本ハムファイターズ） 赤田 龍一郎（中日ドラゴンズ） 【内野手】2名 藤田 一也（東北楽天ゴールデンイーグルス） 内村 賢介（横浜DeNAベイスターズ） 【外野手】2名 鉄平（東北楽天ゴールデンイーグルス） 鈴木 尚広（読売ジャイアンツ） (9) 県高野連指導者講習会を2月1・2日に行った。 講師陣 西谷 浩一（大阪桐蔭高校監督） 大嶋 啓介（㈱居酒屋てっぺん代表取締役） 三宅 博（大阪商科大学野球部コーチ） 遠藤 和博（桑野共立病院 理学療法士） 小野 健太（竹田総合病院 理学療法士） 甲子園出場報告 若林 亨（いわき海星高校監督） 甲子園塾報告 佐藤 文彦（安積黎明高校監督） (10) 高校野球・甲子園塾に本年度は、推薦で安積黎明高校監督 佐藤 文彦が参加。12月6日～8日 (11) 東日本大震災による措置 ア) 大会参加特別措置 抜粋 ・連合チームによる参加を認められた。（第95回相双福島－双葉・相馬農業）
平成26年	(1) 第12代理事長に小針 淳（福島商）が就任する。 (2) 第7代審判部長に帆足 勉（二本松工）が就任する。 (3) 第10代事務局長に田村信裕（橘）が就任する。 (4) 第96回全国高等学校野球選手権福島大会の抽選会の席上で表彰する。 ○福島県高野連功労表彰 菅野 正敏（川俣） 影山 高見（田村） 村山 彰一（会津工） 小林 陽一（会津） 羽染 恒（若松商） 八巻 勤（会津工） 鈴木 美喜夫（好間） ○福島県高野連審判功労表彰 大内 義重（県北） 大内 祐（県北） 安斎 義栄（県北） 西牧 義和（県中） 青砥 利一（県南） 秋山 俊夫（県南） 大竹 明臣（会津） 鈴木 栄和（会津） 今井 至（会津） 高津 健一（会津） 瀧 英泰（磐南） 元川 昭一（磐南） 草野 信一（相双） 紺野 邦夫（相双） (5) 第96回全国高等学校野球選手権大会開会式で本県育成功労賞の受賞者が表彰される。 ○育成功労賞 表彰 須田 健次郎 (6) 第96回全国高等学校野球選手権大会に聖光学院高校が出場し、ベスト8へ進出し、国民体育大会の出場を得る。 (7) 第87回選抜高等学校野球大会「21世紀枠」福島県候補に福島東高校が、選ばれ表彰された。（11月19日） (8) 日本学生野球協会優秀選手に山口優主将（聖光学院）を表彰。 (9) 県高野連強化技術講習会を各校の部員を対象に開催。日本製紙石巻の選手を講師に迎え、開成山球場・いわきグリーンスタジアムの2会場で実施。 講師 木村泰雄 監督始め、28名の選手・コーチが2週にわたり、各会場で熱心なご指導を頂いた。 (10) 高校野球・甲子園塾に本年度は、推薦で会津学鳳高校部長後藤浩之が参加。11月21日～23日 (11) 県高野連指導者講習会を2月1・2日に行った。 講師陣 佐相眞澄（神奈川県立相模原高等学校野球部監督） 臼井博文（㈱サンリ取締役能力開発室長） 西川一樹（日本製紙石巻野球部トレーナー） (12) タイブレーク方式の導入について、来年度の春季東北大会より実施することが決定され、方法など規則が制定される見込みとなった。（第87回選抜大会時の理事会で） (13) 部員不足による連合チームの対応について、細部案など規則が必要となってきた。 東日本大震災による措置 ア) 大会参加特別措置 抜粋 ・連合チームによる参加を認められた。（第96回相双福島－双葉・相馬農業） 部員不足に連合チーム 全国高等学校野球選手権福島大会 会津支部：会津北連合－猪苗代・喜多方東・西会津・坂下 いわき支部：小名浜・遠野－小名浜・遠野 部員不足に連合チーム 秋季東北地区高等学校野球福島県大会 いわき支部：小名浜・遠野・磐城農－小名浜・遠野・磐城農業

年 度	内 容
平成27年	(1) 第97回全国高等学校野球選手権福島大会の抽選会の席上で表彰する。 ○育成功労賞 表彰 伊深 昭司 (2) 第97回全国高等学校野球選手権福島大会の抽選会の席上で表彰する。 ○福島県高野連功労表彰 穴戸 亨 (学法福島) 大河内孝志 (安積黎明) 渡部 彰 (喜多方東) 仲川 康紀 (田島) 木村 保 (磐城) ○福島県高野連審判功労表彰 早川 一五 (県北) 須藤 洋 (県南) 熊田 一三 (県南) 坂下 輝夫 (相双) 本田 一彦 (相双) (3) 第97回全国高等学校野球選手権大会に聖光学院高校が出場した。 (4) 第88回選抜高等学校野球大会「21世紀枠」福島県候補に小高工業高校が、選ばれ表彰。(11月24日) (5) 日本学生野球協会優秀選手に三浦 陸主将 (聖光学院) を表彰。(1月21日) (6) 県高野連強化技術講習会を各校の部員を対象に開催。日本製紙石巻の選手を講師に迎え、いわきグリーンスタジアム・開成山球場の2会場で実施。(8月4日～5日) 講師 伊藤大蔵 監督始め、34名の選手・コーチが2日にわたり、各会場で熱心なご指導を頂いた。 (7) 高校野球・甲子園塾に本年度は、推薦で平商業高校監督遠藤将太が参加。11月20日～22日 (8) 県高野連指導者講習会を1月30・31日に行った。 講師陣 川端 健太 (野球瞬達塾主宰) 北野 尚文 (福井商業高等学校野球部元監督) 添田美智男 (キャタピラーイースト/ウエストジャパン社長) (9) 東日本大震災による措置 ア) 大会参加特別措置 抜粋 ・連合チームによる参加を認められた。(第97回 双葉・相馬農業・新地－双葉・相馬農業・新地) 部員不足に連合チーム 全国高等学校野球選手権福島大会 県北支部：安達東・川俣 －安達東・川俣 会津支部：会津北連合 －猪苗代・喜多方東・西会津・坂下・湖南 いわき支部：小名浜・遠野 －小名浜・遠野 いわき支部：好間・四倉 －好間・四倉 部員不足に連合チーム 秋季東北地区高等学校野球福島県大会 県北支部：安達東・川俣・福島明成 －安達東・川俣・福島明成 会津支部：会津西連合 －西会津・坂下・ザベリオ ：南会津・田島 －南会津・田島 いわき支部：小名浜・遠野・好間・四倉 －好間・四倉・小名浜・遠野 相双支部：相馬農業・双葉・新地・相馬東 －相馬農業・双葉・新地・相馬東
平成28年	(1) 第3代記録部長に渡部 宏 (葵) が就任。 (2) 第11代事務局長に鈴木高清 (福島商) が就任。 (3) 第98回全国高等学校野球選手権福島大会抽選会の席上で表彰。 ○育成功労賞 横山 重 (4) 第98回全国高等学校野球選手権福島大会抽選会の席上で表彰。 ○福島県高野連功労表彰 加藤 昌弘 (川俣) 菅波 智之 (船引) 高崎 藤弘 (清陵情報) 鹿野 治彦 (好間) 桑名 修 (原町) ○福島県高野連審判功労表彰 服部 幸夫 (県北) 迎 一吉 (県南) 須藤 安昭 (県南) 穴澤 利雄 (会津) 荒井 吉正 (会津) 末永 政治 (いわき) 安齋 成次 (相双) (5) 第98回全国高等学校野球選手権大会に、聖光学院が10年連続13回目の出場。 ベスト8に進出し、国民体育大会でもベスト4。 (6) 第89回選抜高等学校野球大会「21世紀枠」福島県候補に小高工業高校が選ばれ表彰。(11月17日) (7) 日本学生野球協会優秀選手に松本康希主将 (聖光学院) が選ばれ表彰。(1月25日) (8) 高校野球・甲子園塾に、小野高校監督 皆川 俊哉 が参加。(11月18日～20日) (9) 県高野連指導者講習会を1月28日・29日に開催。(ホテル華の湯) 講師：原田 隆史氏 (原田教育研究所) 小野 巧氏 (元秋田高等学校野球部監督・現秋田コアビジネスカレッジ校長) 石垣 尚男氏 (愛知工業大学教授・スポーツビジョン研究会幹事) *連合チーム：春季東北地区高校野球大会 県北支部 安達東・川俣・福島明成 会津支部 会津西連合 (猪苗代・ザベリオ・西会津・坂下) いわき支部 四倉・遠野・小名浜 相双支部 相馬農・双葉・新地

年 度	内 容
平成28年	全国高校野球選手権福島大会 県北・県中支部 安達東・川俣・湖南 会津支部 会津西連合（猪苗代・ザベリオ・西会津・坂下） いわき支部 小名浜・遠野・四倉 相双支部 相馬農・双葉・新地 秋季東北地区高校野球大会 県北支部 安達東・川俣・梁川 会津・県中支部 会津西連合（西会津・坂下・猪苗代・湖南） 会津支部 ザベリオ・田島 いわき支部 好間・遠野・四倉 相双支部 相馬農・新地
平成29年	(1) 第24代会長に小林喜則（福島商業高校長）が就任。 (2) 第99回全国高等学校野球選手権福島大会抽選会の席上で表彰。 ○育成功労賞 深谷 修司 ○福島県高野連功労賞 橋本 紀彦（安達） ○福島県高野連審判員感謝状 富田 光利（県北） 鈴木 茂雄（県中） 宗方 栄（県中） 金沢 義貞（県南） 鈴木 憲明（県南） 佐藤 孝行（会津） 佐藤 宗雄（相双） 青木 秀一（相双） 草野 晴一（いわき） 渋井 利夫（磐南） (3) 第99回全国高等学校野球選手権大会に、聖光学院が11年連続14回目の出場。 1・2回戦を突破し、ベスト16に進出。 (4) 第70回秋季東北地区高等学校野球大会で聖光学院が初優勝。 東北地区代表として第48回明治神宮野球大会にも初出場。創成館（九州地区代表）と対戦。 第90回全国選抜高等学校野球大会にも東北地区代表として選出される。（1月26日） (5) 県高野連選手強化技術指導講習会を2年ぶりに開催。（11月18日・19日） 日本製紙石巻野球部を迎え、県営あづま球場で各校の部員および顧問を対象に実施した。 講師：前田直樹 監督始め コーチ・選手・トレーナー・マネージャー 29名 (6) 第90回全国選抜高等学校野球大会「21世紀枠」福島県候補に磐城高校が選ばれ表彰。（11月20日） (7) 第10回甲子園塾に、修明高校監督 矢島 淳 が参加。（12月1日～3日） (8) 日本学生野球協会優秀選手に仁平勇汰主将（聖光学院）が選ばれ表彰。（1月24日） (9) 県高野連指導者講習会を1月27日・28日に開催。（ホテル華の湯） 講師：鈴木 尚広氏（元読売巨人軍選手） 望月浩一郎氏（弁護士） (10) 第90回全国選抜高等学校野球大会に聖光学院が5年ぶり5回目の出場。開幕試合で東筑を破り2回戦進出。 *今年度の連合チーム：春季東北地区高校野球大会 県北支部 安達東・川俣 会津（県中）支部 会津西連合（西会津・坂下・猪苗代・湖南） いわき支部 好間・遠野・四倉 相双支部 相馬農・新地 全国高校野球選手権福島大会 県北支部 安達東・川俣 会津（県中）支部 会津西連合（西会津・坂下・猪苗代・湖南） いわき支部 好間・遠野・四倉 秋季東北地区高校野球大会 県北支部 安達東・川俣・梁川 会津（県中）支部 会津西連合（西会津・坂下・猪苗代・大沼・湖南） いわき支部 磐城農・好間・四倉
平成30年	(1) 第8代審判部長に浅尾哲哉（二本松工）が就任。 (2) 第100回全国高等学校野球選手権記念福島大会抽選会の席上で表彰。 ○都道府県功労賞 菅野 正昭（元県高野連理事長） ○育成功労賞 櫻井 隆雄（前県高野連強化部長） ○福島県高野連功労賞 高橋 俊一（福島北） 小林 達也（県石川） 川村 智（相馬） ○福島県高野連審判員感謝状 佐久間 洋（県北） 高橋 幸司（県北） 大城 宏之（県中） 西山 政宏（県中） 多川 利徳（県南） 真壁 正彦（県南） 菅家 儀一（会津） (3) 選手の健康管理を主な理由とし、全国一斉に延長13回以降タイブレーク制導入。無死1・2塁から継続打順で決着がつくまで実施。ただし、決勝は延長15回引き分け後の再試合から適用。県内では4月27日春季いわき支部大会一回戦平工対平商（13回）で初、県大会では春季準々決勝湯本対福島商（13回）が第一号となった。 (4) 第65回春季東北地区高等学校野球大会で聖光学院が6年ぶり3回目の優勝。 (5) 夏の記念福島大会開会式に湯本高校吹奏楽部、いわき市内各校合唱部が参加し演奏。

年 度	内 容
平成30年	第100回全国高等学校野球選手権記念大会に、聖光学院が12年連続15回目の出場。 初戦で報徳学園に3対2と惜敗。 (6) 軟式の部では、前年につづき秋季県大会の参加が平工業1校のみとなる。 (7) 第11回甲子園塾に、いわき光洋高校 松井秀貴 が参加。(11月16日～18日) (8) 第91回全国選抜高等学校野球大会「21世紀枠」福島県候補に磐城高校が2年連続で選ばれ表彰。(11月19日) (9) 日本学生野球協会優秀選手に矢吹栄希主将(聖光学院)が選ばれ表彰。(1月23日) (10) 県高野連指導者講習会を1月26日・27日に開催。(ホテル華の湯) 講師：松葉 健司 氏(次世代リーダー育成会社Human Freeman代表) 畑 喜美夫 氏(ボトムアップパーソンズ協会・広島県立安芸南高校サッカー部監督) *今年度の連合チーム：春季東北地区高校野球大会 県北支部 川俣・梁川 会津(県中)支部 会津西連合(大沼・西会津・坂下・猪苗代・湖南) 全国高校野球選手権記念福島大会 県北支部 川俣・梁川 会津(県中)支部 会津西連合(大沼・西会津・坂下・猪苗代・湖南) 秋季東北地区高校野球大会 県北支部 川俣・梁川 福島南・明成 県南支部 長沼・塙工業 会津(県中)支部 会津連合(田島・会津北嶺・西会津・猪苗代・湖南) いわき(県中)支部 いわき総合・小野
平成31年 令和元年	(1) 第101回全国高等学校野球選手権福島大会抽選会の席上で表彰。 ○有成功労賞 作山 博邦(元富岡高校川内分校監督) ○福島県高野連功労賞 井田友貴(福島西) 熊倉貴史(福島商) 横山博英(聖光学院) 松原 均(福島明成) 鈴木正美(二本松工) 石渕雅士(安積) 佐藤康弘(郡山) 大友研也(田村) 大町篤志(平工) 荒井嚴重(勿来工) 坂本収司(磐城桜が丘) ○福島県高野連審判員感謝状 遠藤 文郎(県北) 大内 繁(県北) 渡辺 貢一(県北) 石森 春男(県南) 緑川 聡(県南) 森 正(県南) 佐藤 恵一(会津) 河原田昌弘(相双) (2) 第101回全国高等学校野球選手権大会に、聖光学院が13年連続16回目の出場。 初戦で海星(長崎)に3対2と惜敗。 (3) 軟式の部では、加盟校が平工業1校のみとなる。いわきグリーンスタジアムで開催予定の第31回秋季東北地区高校軟式野球大会は、台風19号による甚大な被害のため中止。 (4) 県高野連選手強化技術講習会(11月16日・17日) 日本製紙石巻野球部(前田直樹監督はじめ講師28名)を迎え、全面人工芝に改装の県営あづま球場およびいわきグリーンスタジアムで開催。 (5) 第12回甲子園塾に、福島東高校 鈴木隆史が参加。(12月6日～8日) (6) 第92回全国選抜高等学校野球大会「21世紀枠」福島県候補に磐城高校が3年連続で選ばれ表彰(11月19日) 東北地区候補表彰(12月17日)全国大会代表決定(1月24日) (7) 日本学生野球協会優秀選手に清水正義主将(聖光学院)が選ばれ表彰。(1月23日) (8) 県高野連指導者講習会を1月25日・26日に開催。(ホテル華の湯) 初日講師：柏野牧夫氏(NTTフェロー柏野多様脳特別研究室室長) 福嶋正信氏(東京都立小山台高校野球部監督) 2日目は支部・テーマ単位でワークショップを開催。 (9) 第92回全国選抜高等学校野球大会に磐城高校が46年ぶり3回目の出場。 *連合チーム：春季東北地区高校野球大会 県北支部 川俣・梁川 福島南・福島明成 県中支部 小野・湖南 県南(会津)支部 県南会津連合(長沼・塙工・猪苗代・西会津) 全国高校野球選手権福島大会 県北支部 川俣・梁川 県中(いわき)支部 小野・湖南・好間 県南(会津)支部 県南会津連合(長沼・塙工・猪苗代・西会津) 秋季東北地区高校野球大会 県北支部 福島南・川俣・梁川 県南(県中・会津)支部 小野・長沼・塙工・猪苗代 会津支部 ザベリオ・大沼・田島・坂下 いわき支部 福島高専・平商・好間・四倉 相双支部 相馬農・新地

年 度	内 容
令和2年	(1) 第25代会長に松浦冬樹（福島商業高校長）が就任。 (2) 第5代強化部長に荒峰雄（平工）が就任。 (3) 令和2年11月5日、福島トヨタクラウンアリーナにて、県理事会の席上で表彰。 ○育成功労賞 関川 博巳（元福島商業高校監督） ○福島県高野連功労賞 長澤 敏浩（梁川） 本田 朋亮（白河実） 廣瀬 敬彦（会津） ○福島県高野連審判員感謝状 遊佐 久男（県北） 渡辺 好克（県北） 浦住 憲男（県中） 瓜生 慎一（会津） 猪狩 友一（相双） (4) 第92回全国選抜高等学校野球大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。2020年甲子園高校野球交流試合が各校1試合のみで開催され、選抜大会に21世紀枠で46年ぶり3度目の出場を決めていた磐城高校が8月15日、国士舘高校と対戦し3対4で惜敗。 (5) 春季大会は支部から東北大会まですべて中止。 (6) 第102回全国高等学校野球選手権大会もコロナ禍で中止。代替の福島2020夏季高等学校野球大会（シード4校）は聖光学院が優勝。宮城県で開催された令和2年東北地区高等学校野球大会でも優勝。単独大会で夏の通算記録には数えない。 (7) 大会開催にあたり、コロナ感染防止策徹底。（開会式なし。宿泊・長距離移動回避。1日2試合。延長はタイブレーク。観戦は選手家族2名まで。応援は拍手のみ。関係者全員入場時に検温。試合日までの健康記録。ベンチや座席の消毒。マスク着用。校歌は演奏のみなど。） (8) 新たに「投球数制限（1週間500球）」および「申告敬遠」導入。 (9) 秋季大会は夏の大会同様、コロナ対策のもと東北大会まで開催。神宮大会・甲子園塾、県指導者講習会は中止。 (10) 第93回全国選抜高等学校野球大会「21世紀枠」福島県候補に相馬東高校が選ばれ表彰（11月27日） (11) 日本学生野球協会優秀選手に内山連希主将（聖光学院）が選ばれ表彰。（1月26日） *連合チーム：福島2020夏季高等学校野球大会 県北支部 福島南・川俣・梁川 県中（県南）支部 小野・長沼・塙工業連合 会津支部 会津連合（田島・猪苗代・坂下・大沼） いわき支部 いわき連合（四倉・好間・福島高専） 相双支部 相馬農業・新地 秋季東北地区高等学校野球大会 県中（県北）支部 小野・あさか開成・本宮 県南支部 清陵情報・長沼連合 会津支部 会津連合（ザベリオ・大沼・田島・坂下・猪苗代） いわき支部 平商・磐城農・好間・四倉
令和3年	(1) 第13代理事長に木村 保（福島商）が就任。 (2) 第103回全国高等学校野球選手権福島大会抽選会の席上で表彰。 ○育成功労賞 酒井 良雄（元原町高校監督など） ○福島県高野連功労賞 一ノ瀬 圭（喜多方） ○福島県高野連審判員感謝状 三瓶 智恵（県中） 吉川 由起（県中） 深谷 光男（県南） 小坂井孝博（県南） (3) 春季県大会は、聖光学院が優勝を果たすも、新型コロナウイルスの影響により秋田で開催予定の東北大会は中止。県内でも支部大会から（途中）欠場を余儀なくされるチーム（福島東・いわき光洋・湯本・会津・若松商）が相次ぐ。 (4) 第103回全国高等学校野球選手権福島大会はコロナ対策の下、開会式・宣誓を実施。日大東北が決勝で光南にサヨナラ勝ち。甲子園での初戦、近江との試合は悪天候により6日延びた上に降雨ノーゲーム。再試合は8対2で敗戦。 (5) 秋季大会ではコロナ禍による新チームの経験不足に配慮し、支部大会を第2代表までのシード決めにとどめ、県大会を史上初の全チーム参加での開催とする。東北大会は青森県のコロナ対応を受け、急遽南の宮城県に日程と会場変更。第1代表聖光学院が準優勝。 (6) 前年同様、新型コロナウイルス対策はすべての大会で継続。甲子園塾も中止。 (7) 第94回全国選抜高等学校野球大会「21世紀枠」福島県推薦校に只見高校が選ばれ表彰（11月26日）。さらに東北地区推薦校に選出、表彰（12月14日）。 (8) 日本学生野球協会優秀選手に松川侑矢主将（日大東北）が選ばれ表彰。（1月20日） (9) 県指導者講習会は1月30日に開催予定もコロナ再拡大により中止。 (10) 第94回全国選抜高等学校野球大会に聖光学院が4年ぶり6回目の出場。只見高校も「21世紀枠」で初出場。本県からの2校出場は9年ぶり2度目。 (11) 電子スコア導入に向け記録研修会開催。（2月23日） *連合チーム：春季東北地区高校野球大会 会津（県南）支部 会津・県南連合（猪苗代・田島・ザベリオ・長沼）

年 度	内 容
令和3年	全国高校野球選手権大会 県中(いわき・相双)支部 小野・四倉・相馬農業 会津(県南)支部 会津・県南連合(猪苗代・田島・ザベリオ・長沼) 秋季東北地区高校野球大会 会津支部 会津連合(ザベリオ・田島・会津農林) いわき(県中・相双)支部 磐農・四倉・小野・相農

校 名 変 更 等 一 覧

	新 校 名	旧 校 名
県 北 支 部	川 俣	川俣工業高校(昭和22年まで)、昭和23年から現校名
	福 島 工 業	信夫高校(昭和31年まで)、昭和32年から現校名
	福 島 北	飯坂高校(昭和48年まで)、昭和49年から現校名
	学 法 福 島	福島電機工業高校(昭和26年まで)、学法福島工業高校(昭和27年～54年)、昭和55年から現校名
	福 島 明 成	福島農業高校(昭和22年まで)、福島農蚕高校(昭和23年～平成8年)、平成9年から現校名
	聖 光 学 院	聖光学院工業高校(昭和51年まで)、昭和52年から現校名
	福 島 一	学法福島工業高校と統合 ⇒ 学法福島高校へ
県 中 支 部	郡 山 北 工 業	郡山工業高校(昭和22年～51年)と郡山西工業高校(昭和39年～51年)が合併、昭和52年から現校名
	日 大 東 北	日大東北工業高校(昭和52年まで)、昭和53年から現校名
	帝 京 安 積	安積商業高校(昭和62年まで)、昭和63年から現校名
	小 野	田村農業高校(昭和26年まで)、小野新町高校(昭和27年～29年)、昭和30年から現校名
県 南 支 部	東 白 川 農 商	東白川農業高校(昭和24年まで)、昭和25年から現校名
	白 河 実 業	白河農業高校(昭和33年まで)、白河農工高校(昭和34年～53年)、昭和54年から現校名
	塙 工 業	塙高校(昭和44年まで)、昭和45年から現校名
	修 明	棚倉高校(昭和24年～平成20年)と東白川農商高校(昭和24年～平成20年)が統合、平成21年から現校名
	学 法 石 川	石川中(昭和22年まで)、私立石川高校(昭和23年～25年)、昭和26年から現校名
会 津 支 部	西 会 津	耶麻高校野沢校舎(昭和38年まで)、昭和39年から現校名
	喜 多 方 商 業	喜多方商工高校(昭和39年まで)、昭和40年から現校名
	耶 麻 農	耶麻高校(昭和44年まで)、昭和45年から現校名
	喜 多 方 桐 桜	喜多方工業高校(昭和38年～平成21年)と喜多方商業高校(昭和22年～平成21年)が合併、平成22年から現校名
い わ き 支 部	い わ き 海 星	小名浜水産高校(平成6年まで)、平成7年から現校名
	い わ き 総 合	内郷高校(平成15年まで)、平成16年から現校名
相 双 支 部	原 町	相馬商業高校(昭和22年まで)、昭和23年から現校名
	小 高 商 業	小高高校(昭和56年まで)、昭和57年から現校名
	松 栄	学法原町工業高校(平成7年まで)、平成8年から現校名
	双 葉 翔 陽	双葉農業高校(平成8年まで)、平成9年から現校名

創 部 一 覧 (硬 式)

創 部	校 名	創 立	加 盟	創 部	校 名	創 立	加 盟
明治 23 年	安 積	明治 17 年	昭和 22 年	昭和 37 年	勿 来 工	昭和 36 年	昭和 37 年
♪ 30 年	福 島 明 成	♪ 29 年	♪ 22 年	♪ 37 年	福 島 高 専	♪ 37 年	♪ 49 年
♪ 32 年	会 津	♪ 23 年	♪ 22 年	♪ 38 年	小 高 工	♪ 38 年	♪ 40 年
♪ 34 年	福 島	♪ 31 年	♪ 22 年	♪ 39 年	西 会 津	♪ 23 年	♪ 34 年
♪ 36 年	相 馬	♪ 31 年	♪ 22 年	♪ 41 年	坂 下	♪ 24 年	♪ 41 年
♪ 39 年	磐 城	♪ 29 年	♪ 22 年	♪ 41 年	好 間	♪ 23 年	♪ 41 年
♪ 41 年	学 法 石 川	♪ 25 年	♪ 22 年	♪ 50 年	岩 瀬 農	明治 41 年	♪ 23 年
大正 9 年	喜 多 方	大正 7 年	♪ 22 年	♪ 51 年	只 見	昭和 39 年	♪ 52 年
♪ 11 年	保 原	♪ 11 年	♪ 22 年	♪ 52 年	湖 南	♪ 38 年	♪ 52 年
♪ 11 年	福 島 商	明治 30 年	♪ 22 年	♪ 52 年	郡 山	♪ 52 年	♪ 52 年
♪ 11 年	白 河	大正 11 年	♪ 22 年	♪ 52 年	郡 山 北 工	♪ 52 年	♪ 52 年
♪ 12 年	田 村	♪ 12 年	♪ 22 年	♪ 53 年	長 沼	♪ 23 年	♪ 53 年
♪ 12 年	双 葉	♪ 12 年	♪ 22 年	♪ 53 年	相馬農飯館	♪ 24 年	♪ 53 年
♪ 13 年	安 達	♪ 10 年	♪ 22 年	♪ 54 年	南 会 津	♪ 23 年	♪ 53 年
♪ 13 年	若 松 商	明治 45 年	♪ 22 年	♪ 54 年	遠 野	♪ 23 年	♪ 54 年
昭和 2 年	白 河 実	昭和 2 年	♪ 27 年	♪ 55 年	福 島 東	♪ 55 年	♪ 55 年
♪ 5 年	会 津 工	明治 35 年	♪ 22 年	♪ 55 年	小 高 商	明治 43 年	♪ 56 年
♪ 6 年	平 商	大正 2 年	♪ 22 年	♪ 56 年	安 達 東	昭和 48 年	♪ 57 年
♪ 10 年	郡 山 商	♪ 7 年	♪ 22 年	♪ 58 年	相 馬 農	明治 36 年	♪ 58 年
♪ 22 年	田 島	明治 44 年	♪ 24 年	♪ 61 年	双 葉 翔 陽	昭和 33 年	♪ 61 年
♪ 22 年	平 工	昭和 15 年	♪ 22 年	♪ 62 年	磐 城 農	♪ 19 年	♪ 62 年
♪ 22 年	川 俣	明治 41 年	♪ 22 年	♪ 62 年	浪 江	♪ 2 年	♪ 62 年
♪ 22 年	原 町	昭和 14 年	♪ 22 年	♪ 63 年	清 陵 情 報	♪ 63 年	♪ 63 年
♪ 23 年	小 野	♪ 23 年	♪ 24 年	平成 7 年	須賀川桐陽	♪ 38 年	平成 7 年
♪ 23 年	塙 工	♪ 23 年	♪ 36 年	♪ 8 年	福 島 西	♪ 38 年	♪ 8 年
♪ 23 年	須 賀 川	明治 40 年	♪ 23 年	♪ 8 年	あさか開成	平成 8 年	♪ 8 年
♪ 23 年	小 名 浜	♪ 40 年	♪ 23 年	♪ 8 年	光 南	昭和 8 年	♪ 8 年
♪ 23 年	会 津 農 林	♪ 40 年	♪ 23 年	♪ 9 年	白 河 旭	大正 3 年	♪ 9 年
♪ 24 年	大 沼	大正 10 年	♪ 27 年	♪ 10 年	郡 山 東	♪ 12 年	♪ 10 年
♪ 24 年	いわき総合	昭和 23 年	♪ 23 年	♪ 10 年	尚 志	昭和 39 年	♪ 10 年
♪ 24 年	学 法 福 島	♪ 17 年	♪ 24 年	♪ 12 年	喜 多 方 東	♪ 3 年	♪ 12 年
♪ 25 年	四 倉	♪ 23 年	♪ 27 年	♪ 12 年	いわき光洋	平成 5 年	♪ 12 年
♪ 26 年	日 大 東 北	♪ 26 年	♪ 27 年	♪ 12 年	東日大昌平	♪ 12 年	♪ 12 年
♪ 26 年	石 川	大正 12 年	♪ 26 年	♪ 13 年	安 積 黎 明	明治 44 年	♪ 13 年
♪ 26 年	福 島 工	昭和 23 年	♪ 26 年	♪ 13 年	磐城桜が丘	明治 37 年	♪ 13 年
♪ 27 年	本 宮	大正 4 年	♪ 27 年	♪ 14 年	葵	♪ 26 年	♪ 14 年
♪ 27 年	梁 川	♪ 8 年	♪ 27 年	♪ 14 年	会 津 学 鳳	大正 13 年	♪ 14 年
♪ 29 年	勿 来	昭和 23 年	♪ 29 年	♪ 14 年	富 岡	昭和 25 年	♪ 14 年
♪ 32 年	松 栄	♪ 32 年	♪ 33 年	♪ 15 年	橘	明治 30 年	♪ 15 年
♪ 34 年	若 松 一	大正 12 年	♪ 35 年	♪ 15 年	福 島 南	昭和 62 年	♪ 15 年
♪ 35 年	福 島 北	昭和 23 年	♪ 36 年	♪ 15 年	相 馬 東	明治 40 年	♪ 15 年
♪ 35 年	帝 京 安 積	♪ 34 年	♪ 38 年	♪ 17 年	新 地	明治 39 年	♪ 17 年
♪ 35 年	猪 苗 代	♪ 23 年	♪ 37 年	♪ 19 年	福 島 成 蹊	大正 2 年	♪ 19 年
♪ 35 年	いわき海星	♪ 9 年	♪ 60 年	♪ 21 年	修 明	平成 21 年	♪ 21 年
♪ 36 年	船 引	♪ 23 年	♪ 35 年	♪ 22 年	喜 多 方 桐 桜	♪ 22 年	♪ 22 年
♪ 36 年	湯 本	♪ 17 年	♪ 36 年	♪ 24 年	会津若松ザベリヤ学園	昭和 33 年	♪ 24 年
♪ 37 年	聖 光 学 院	♪ 37 年	♪ 38 年	♪ 27 年	ふたば未来学園	平成 27 年	♪ 27 年
♪ 37 年	二 本 松 工	♪ 37 年	♪ 40 年				